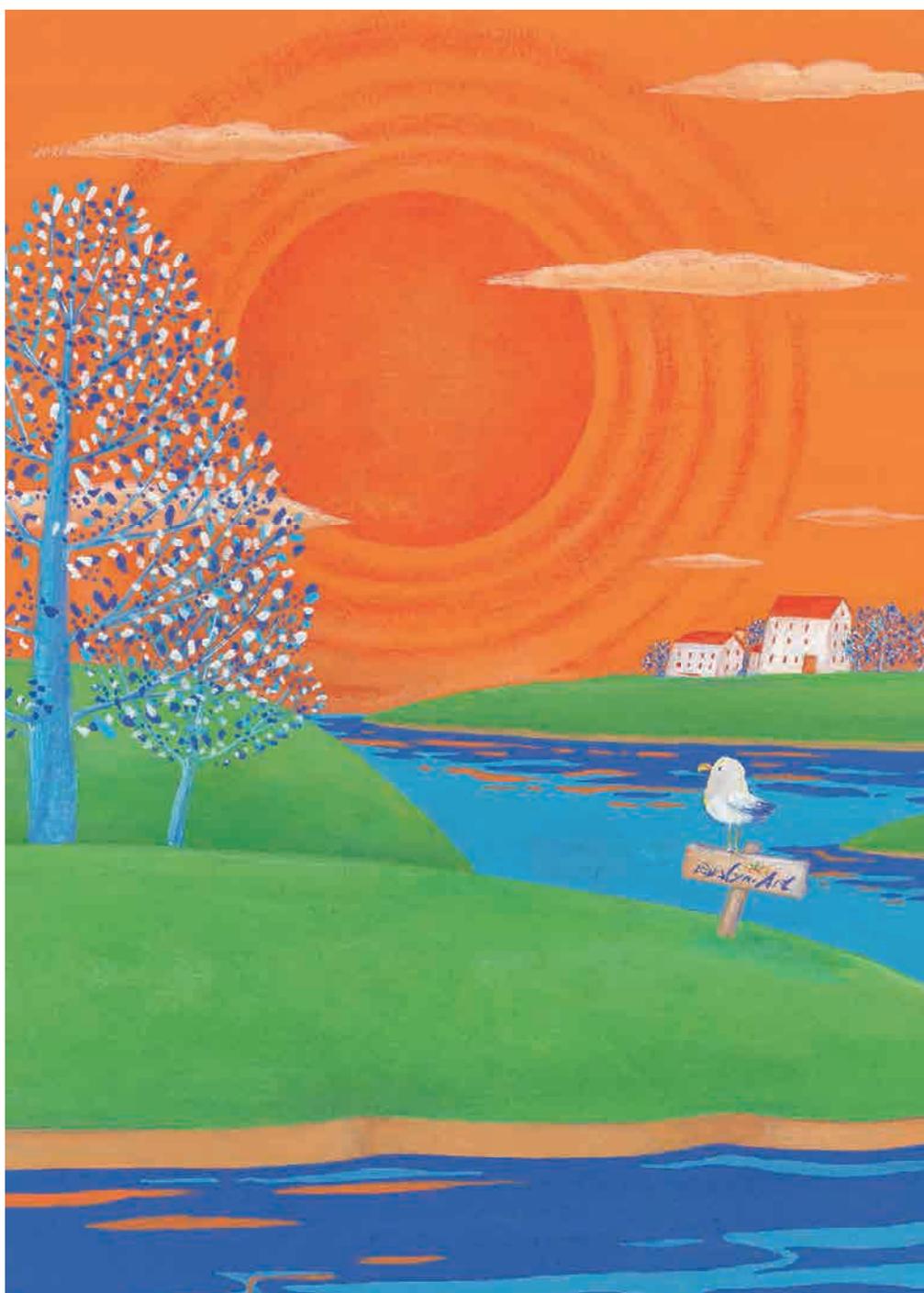


芙蓉リースグループ  
CSR報告書2015



FUYO LEASE



# CSR

企業の社会的責任

**CSR**  
企業の社会的責任

自然エネルギーを活用して  
省エネ対策を実現

パソコンの再利用による環境貢献と  
コスト削減の両立を実現

環境とコストに配慮した最適な  
ソリューションを提供

クリーンエネルギーの供給拡大

**トップメッセージ**  
取締役社長 佐藤 隆

詳しくはこちら

**芙蓉リースグループのCSR**

- ▶ 経営理念
- ▶ CSRの考え
- ▶ 芙蓉リースグループとステークホルダー

**芙蓉リースグループの概要**

- ▶ 会社概要
- ▶ 事業概要

**環境報告**

- ▶ 環境先進企業をめざして
- ▶ 環境理念／環境方針
- ▶ 環境マネジメント
- ▶ 環境会計
- ▶ 芙蓉リースグループの主な環境目標
- ▶ 環境パフォーマンス
- ▶ 環境配慮型商品・サービスの一覧

**社会性報告**

- ▶ お客様との関わり
- ▶ 株主との関わり
- ▶ 地域社会との関わり
- ▶ 社員との関わり

**ガバナンスとマネジメント**

- ▶ コーポレート・ガバナンス
- ▶ リスク管理／コンプライアンス
- ▶ 情報セキュリティへの取り組み

**グループ各社の環境・社会への取り組み**

- ▶ 芙蓉オートリース
- ▶ エフ・ジー・エル・サービス
- ▶ 芙蓉リース販売
- ▶ アクア・アート
- ▶ エフ・ネット
- ▶ シャープファイナンス

- ▶ トップメッセージ
- ▶ 自然エネルギーを活用して省エネ対策を実現
- ▶ パソコンの再利用による環境貢献とコスト削減の両立を実現
- ▶ 環境とコストに配慮した最適なソリューションを提供
- ▶ クリーンエネルギーの供給拡大
- ▶ 芙蓉リースグループのCSR
- ▶ 芙蓉リースグループの概要
- ▶ 環境報告
- ▶ 社会性報告
- ▶ ガバナンスとマネジメント
- ▶ グループ各社の環境・社会への取り組み
- ▶ 大阪府流入車規制
- ▶ 編集方針

▶ 大阪府流入車規制 ▶ 編集方針 ▶ CSRについてのお問い合わせはこちら

「CSR報告書」PDFダウンロード

2	トップメッセージ
3	ESCOサービス
5	PC Eco & Valueリース、PCレンタル
7	リマーケティング事業
9	太陽光発電事業
10	芙蓉リースグループのCSR
16	芙蓉リースグループの概要
19	環境報告
39	社会性報告
61	ガバナンスとマネジメント
66	グループ各社の環境・社会への取り組み
78	大阪府流入車規制
79	編集方針
81	「CSR 報告書」PDF ダウンロード



## トップメッセージ

芙蓉リースグループならではの  
本業と一体となったCSR活動に  
力を注いでいます

取締役社長 佐藤 隆

芙蓉リースグループは、2014年4月に新たな「CSR行動指針」を策定し、それに基づく2016年度までの数値目標を設定しました。その目的は、2014年度～2016年度を対象年度とする中期経営計画「Value Creation 300」のスタートに合わせて、環境問題の解決や社会の発展に積極的に貢献していく当社グループの姿勢を社内外のステークホルダー [▼用語解説](#) に明確に示すことにありました。経営理念の第一に「リース事業を通じて企業活動をサポートし、社会の発展に貢献する」ことを掲げている当社グループにとって、本業とCSR活動は不可分なものであり、中期経営計画やCSR行動指針に沿った取り組みは着実に成果を上げています。

例えば、環境問題への有力なアプローチである再生可能エネルギー事業は、中期経営計画の重点戦略の一つとしており、2015年6月までに21カ所の大規模太陽光発電所を稼働させています。

また、成長戦略の基盤となるマネジメント面では、「女性の管理職登用に関する自主行動計画」を策定し、女性社員のさらなる活躍を推進しています。さらに、CSR活動においては、リースをはじめとする各種の金融機能を柔軟に活用し、環境・社会問題の解決を図るお客様の設備投資をしっかりとサポートするとともに、リース満了物件などの3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進し、循環型社会の構築に寄与しています。

これからも私たちは、当社グループらしい、当社グループならではのエッセンスを加えた活動をグループ丸となって展開し、「前例のない場所」をめざします。そして、皆様の期待を大きく超える価値あるサービスを提供し続けます。今後の当社グループにぜひご期待ください。

### ● CSR行動指針

FUYO LEASEグループは、「人と地球にやさしい」事業に真摯に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献したいと考えています。

- ① 環境関連分野におけるリースや商品・サービスを、積極的に提案・提供します。
- ② 再生可能エネルギー事業者として、クリーンエネルギーの供給を推進します。
- ③ 3R [▼用語解説](#) の実践領域を拡大し、廃棄物の発生を抑えた循環型社会の実現に寄与します。
- ④ アクア・アート事業を通じて、オフィスや街中、そして都会の子供たちに「自然に触れる機会」と「笑顔」を届けます。

### ● CSR活動の目標値と実績

項目	2014年度計画	2014年度実績	2015年度計画	2016年度目標
環境提案の件数	1,900件	2,274件	2,100件	2,300件
環境配慮型物件の取得金額	80億円	304億円	90億円	100億円
クリーンエネルギーの供給	38MW	47MW	65MW	100MW
マーケティングの買取物件数	30,000件	84,754件	60,000件	100,000件
アクア・アートの稼働台数	856台	853台	888台	900台

#### 用語解説

##### ステークホルダー

ステークホルダーとは、組織をとりまく利害関係者のことです。企業などの組織は、事業活動をするうえで、さまざまなステークホルダーと利害関係を持っているため、ステークホルダーとの信頼関係の構築は、組織の持続的な発展のうえで不可欠な要素です。

経済産業省は、環境パフォーマンス指標を定めたなかで、ステークホルダーを次のように分類しています。(1)従業員、(2)投資家、(3)取引先、(4)請負業者、(5)金融機関、(6)環境法規制の関連団体など、(7)地域住民、(8)マスコミ、(9)行政、(10)NGO(非政府組織)、(11)グリーンコンシューマー、(12)一般市民・消費者。

##### 3R(リデュース/廃棄物の発生抑制・リユース・リサイクル)

3Rとは、スリーアールと読み、(1)廃棄物の発生抑制(Reduce=リデュース)、(2)資源や製品の再使用(Reuse=リユース)、(3)再生利用(Recycle=リサイクル)のことです。3R活動とは、上の3つのRに取り組むことでゴミを限りなく少なくし、そのことでゴミの焼却や埋立処分による環境への悪い影響を極力減らすことと、限りある地球の資源を有効に繰り返し使う社会(=循環型社会)をつくらうとするものです。

# 自然エネルギーを 活用して 省エネ対策を実現

温泉の源泉熱と排湯熱を活かした  
ESCO サービス



芙蓉リースは、アズビル株式会社との共同事業によって、常磐興産株式会社が福島県いわき市で運営する「スパリゾートハワイアンズ」におけるESCOサービスの提供を開始しました。

「スパリゾートハワイアンズ」は、映画「フラガール」のモデルとなった施設で、東京ドーム約6個分の敷地に5つの温泉テーマパークやホテル施設を有する日本最大級の温泉レジャー施設です。東日本大震災からの復旧整備を2012年1月末に完了し、地域と一体となって復興を牽引しています。

こうしたなか、芙蓉リースとアズビル株式会社は、温泉から出る源泉熱・排湯熱を利用した省エネ設備や高効率の熱源設備の導入、さらにエネルギーデータを収集・管理するシステムである既存のBEMS※を活用した各種制御システムの改善と運転管理の効率化などを提案。自然エネルギーを活用することで、コストパフォーマンスに優れ、環境にもやさしいESCOサービスとして、採用いただきました。2015年4月から第一期のサービスの提供を開始し、2016年4月にはすべてのサービスを提供する予定です。



芙蓉リースは、2006年に「エネルギー・環境営業室」を設置して以来、ESCOサービスの取り扱い実績を伸ばし、多くの民間企業や自治体のお客様に幅広く採用いただいています。今後も、それぞれのお客様のニーズに対し、最適な省エネを提案・促進することで、地球環境保全への貢献をめざしていきます。

※ Building Energy Management System

## III 「スパリゾートハワイアンズ」における ESCOサービスによる省エネ効果(計画)

一次エネルギー削減量	20,605,526 (MJ/年) (削減率 7.03%)
原油換算削減量	531,623 (L/年) (削減率 7.03%)
CO <sub>2</sub> 排出削減量	1,608 (t-CO <sub>2</sub> /年) (削減率 9.23%)

## III ESCO (Energy Service Company) とは

ESCOは、省エネに関する提案や設備導入、資金調達など包括的なサービスを提供するものです。お客様はサービスを利用することで削減されたコストからESCO事業者にも費用を支払うため、追加費用を負担せずに省エネを実現でき、将来的な経費の削減にもつながります。



## 「引き続き環境にやさしい施設づくりに 役立つ提案を期待しています！」



「スパリゾートハワイアンズ」は、旧称「常磐ハワイアンセンター」の時代から多くの皆様にご愛顧いただき、2015年1月に創業50周年を迎えました。オープンからの入場者数は累計6,000万人を超え、当社では、これからも皆様に喜んでいただける施設づくりをめざして取り組んでいます。

今回、芙蓉リースから提案があったESCOサービスでは、スパリゾートらしく源泉熱や排湯熱を活用した省エネ設備が導入されています。第2期のサービスが開始となる2016年4月以降は、年間約7%の省エネ効果と9%以上のCO<sub>2</sub>排出削減が見込まれています。芙蓉リースには、今後も引き続き環境にやさしい施設づくりに役立つ提案を期待しています。



新設した空冷ヒートポンプチラー前にて

# パソコンの再利用 による環境貢献と コスト削減の 両立を実現

「PC Eco & Value リース」  
「PC レンタル」



## Customer's VOICE

株式会社 協和エクシオ 調達部の皆様の声

「大量の旧PCのデータ消去と  
新PCのキitting作業という課題が  
スピーディに解決されました！」



株式会社 協和エクシオ

協和エクシオグループは、1954年の設立から、情報通信に関わるすべての設備について企画・設計から施工・保守までの一貫したサービスを全国的に提供しています。

社名である「エクシオ」は、ラテン語で「自らの殻を破り、常に外向きに挑戦する決意」を表しています。当社は、付加価値の高いトータルICTソリューションをグループ一体となって提供することで豊かな生活環境を創出しています。事業活動においても常に環境との調和を念頭に、一人ひとりが「できること、やるべきこと」を考え行動しています。

環境マネジメントシステム (ISO14001) の認証を取得し、電力使用量や廃棄物の削減など事業活動に伴う環境負荷の低減に努めてきました。さらには森林育成活動、街の美化運動などの環境保全活動も順次拡大しています。

当社は2014年4月のWindows XPのサポート終了に際して、約10,000台のPCの総入れ替えをしましたが、特に課題となったのが、「旧PCのデータ消去」と「新PCのキitting作業」でした。これらの大量処理に短期間に対応し、課題を解決してくれたのが、芙蓉リースの「PC Eco & Valueリース」です。環境にやさしく、情報セキュリティの面でも安心かつコストも安い「PC Eco & Valueリース」には、大変助けられました。

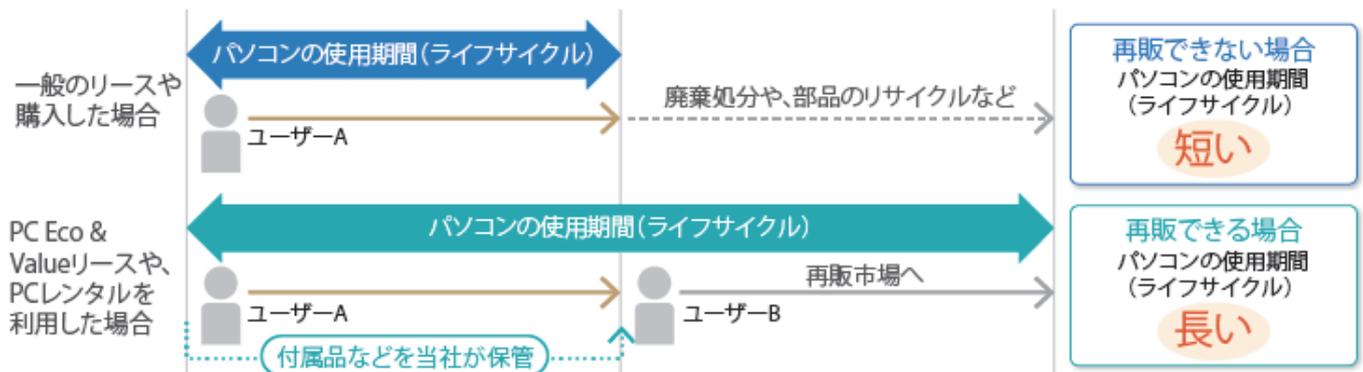
## 中古パソコンを再商品化する体制を確立し、普及が進むタブレット端末にも対応

芙蓉リースが提供している「PC Eco & Valueリース」「PCレンタル」は、「パソコンを短いサイクルで最新のものに、できればリーズナブルに入れ替えたい」という多くのお客様のニーズにお応えするサービスです。

グループ会社エフ・ネットとともに中古パソコンを再商品化する体制を確立。一般のリースなどでは散逸してしまうパソコンの付属品を保管しておき、リース・レンタルが満了して返還されたパソコンに「データ消去」などの適切な処置を施して、再販しています。また、新しいパソコンを大量に導入する際に負担となる「キitting作業」などを請け負うサービスも提供しているため、新旧のパソコンの入れ替えが容易に行えます。2013年からは、急速に普及が進んでいるタブレット端末もサービスの対象に加わり、お客様にとっての利便性がさらに高まりました。

パソコン返却時の中古価値を見込んでリース・レンタル料を設定するため、通常に比べ割安な料金でご利用いただけるのも、「PC Eco & Valueリース」「PCレンタル」の大きな特徴です。お客様には「環境貢献」と「コスト削減」の両立を実現するサービスとして、大変好評をいただいています。

### ■ 「PC Eco & Valueリース」と「PCレンタル」のイメージ



### パソコンのライフサイクルを支える 株式会社エフ・ネット



#### ● 「テクニカルサポートセンター」でのインストール作業

エフ・ネット本社内のテクニカルサポートセンターでは、新規導入パソコンのソフトウェアインストールと各種設定作業や、運用支援サービスを提供しています。

#### ● 「深川テクニカルセンター」でのデータ抹消・再商品化作業

深川テクニカルセンターでは、「PC Eco & Valueリース」「PCレンタル」の満了返却PCを月約5,000台(年間約6万台)受入、データの消去や動作チェックなど、再商品化のための作業を行っています。両事業所で、パソコンの導入から終了までのライフサイクルを支えています。



1台ずつデータ抹消作業を実施



保管していた付属品などをセットして再販市場へ

# 環境とコストに 配慮した最適な ソリューションを提供

不要資産の再利用を促進する  
「リマーケティング事業」



## Customer's VOICE

東急不動産株式会社 経営管理本部 総務・人事部 総務グループ様の声

### 「煩雑なオフィス移転に際し、廃棄物と コストを同時に削減できる点を評価」



当社は、東急不動産ホールディングスグループの中核企業として、都市事業、住宅事業、ウェルネス事業、海外事業などを展開する総合不動産企業です。

グループの本拠地である渋谷では、2015年春から都市機能を根本から見直す官民一体の再開発事業が本格化し、当社もこの大型プロジェクトに参画しています。

時を同じくして、当社グループも2015年4月から順次グループ会社の移転・集約を進めており、8月には本社機能の移転を完了しました。移転に際して、芙蓉リース販売から提案を受けたのが、「リマーケティング」サービスです。旧オフィスの机や椅子、キャビネットなどのなかにはまだ使えるものもありましたが、移転に伴う煩雑な作業の最中に「リユース」することまで思いが至らず、想定を超える提案でした。

廃棄物を削減し循環型社会の実現に貢献できる「リマーケティング」は、当社グループが掲げる環境ビジョンに合致しているだけでなく、コスト削減と手間のかかる作業のアウトソーシングができる点も評価しています。



移転後の東急不動産本社(左)と再開発後の渋谷の予想図(右)

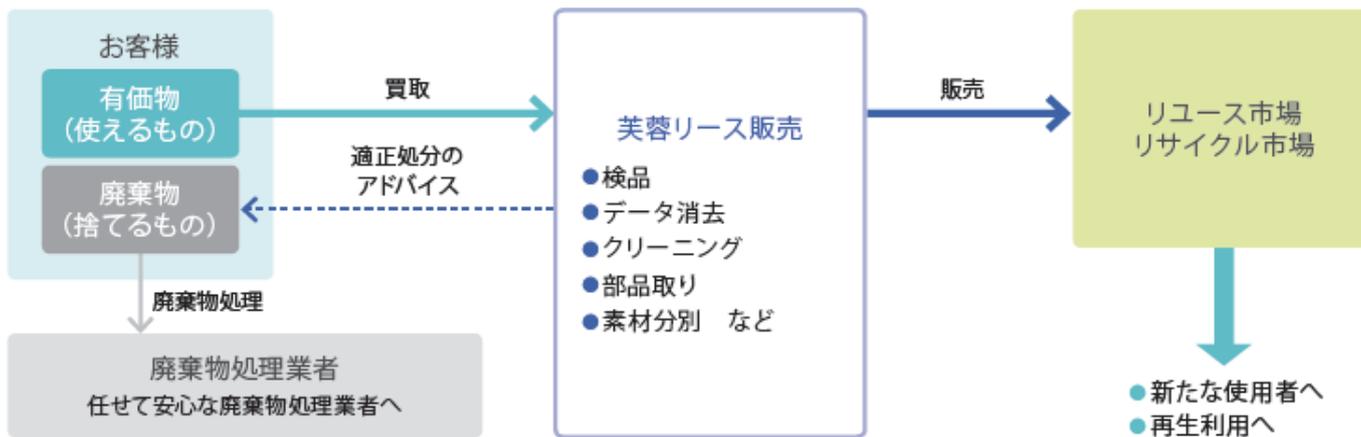
## 不要になった機器・設備を買取り、廃棄費用と環境負荷の双方を削減

芙蓉リースのグループ会社、芙蓉リース販売では、リース満了物件を長年にわたって適正処理してきたノウハウを活かし、お客様の不要資産の処分に際し、環境とコストに配慮した最適なソリューションを提供する「リマーケティング事業」を展開しています。

企業の事務所の移転や機器の入れ替えなどにおいて発生する不要資産は、捨ててしまえば「廃棄物」となり、廃棄費用もかかります。そこで、芙蓉リース販売では、これら中古資産のうち、有価物を買取り、リユース・リサイクル市場を通じて、新たな使用者に販売することで、再利用を促進しています。買取りにあたっては、ご要望に応じてパソコンなどの情報機器に含まれるデータ消去も承っています。

また、リユース・リサイクルが困難な物件に関しては、お客様に対し廃棄物の適正処理のアドバイスも行っています。

### ■ リマーケティング事業の仕組み



### リユース・リサイクルの中核拠点 東京3Rセンター

2013年3月に東京都八王子市に移転・拡大した「東京3Rセンター」は、リース満了物件とリマーケティング事業による買取り物件をリユース・リサイクルする中核拠点です。循環型社会への貢献をめざすとともに、万全の情報セキュリティ体制による施設運営を行っています。

本格稼働した2013年度は、リース満了物件と買取り物件を合わせて約8万点、2014年度は9万点の物件を受け入れました。



# クリーンエネルギー の供給拡大

クリスタル・クリア・ソーラーによる  
太陽光発電事業



クリスタル・クリア・ソーラーが運営する福島県富岡町の太陽光発電所

太陽光・風力・地熱といった「再生可能エネルギー」は、CO<sub>2</sub>やNO<sub>x</sub>などの有害物質の排出量が少ない「クリーンエネルギー」として、国のエネルギー政策の最重要課題の一つに位置づけられています。

芙蓉リースは、こうした重要課題の解決に向けて、メガソーラー（大規模太陽光発電所）事業に進出し、クリーンエネルギーの拡大に取り組んでいます。

2012年10月に、太陽光発電で50年の歴史を持つシャープ株式会社と共同出資で合同会社クリスタル・クリア・ソーラーを設立。2015年6月までに全国21カ所に太陽光発電所を開設しています。2017年3月までに全国30カ所に拡大し、約3万世帯分の電力の供給を行う計画です。

芙蓉リースでは、このメガソーラー事業を通じて、東日本大震災で大きな被害を受けた東北地方の復興への貢献もめざしており、2015年6月末に開設した最も新しい太陽光発電所は、福島第一原子力発電所の事故で全町避難が続く福島県富岡町で商業運転を行っています。富岡町から借り受けた約3.1ヘクタールの土地に8,592枚の太陽光パネルを設置し、約663世帯分の電力の供給を行う計画で、売電収益の一部は、復興協力金として富岡町に納付することとしています。福島県内では双葉郡川内村に2カ所目の太陽光発電所を建設中で、2015年10月には完成する予定です。

芙蓉リースグループは、今後も太陽光発電事業などを通じて再生可能エネルギーの普及に努め、地球環境保全に取り組むとともに、被災地の復興に少しでも貢献していきたいと考えています。

## 経営理念

- リース事業を通じて企業活動をサポートし、社会の発展に貢献する。
- 顧客第一主義に徹し、最高のサービスを提供する。
- 創造と革新を追求し、株主・市場から評価される企業を目指す。
- 自ら考え積極的に行動する社員を育て、働き甲斐のある職場を創る。

# CSRの考え

## CSR活動のさらなる進化をめざして

### 担当役員メッセージ

芙蓉リースグループは、2006年に初めて「CSR報告書」を発行しました。1回目の報告書には、「この2006年度CSR報告書の発行は、当社グループのCSR活動のスタートでもと考えております。今後は、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの一環として、当社グループのCSRの地道な活動報告として毎年発行していきたいと考えております。是非忌憚のないご意見・ご批判を賜りますよう、お願い申し上げます」と記述してあります。

それから10年、今回の「CSR報告書2015」は10回目の発行になります。この間、社会情勢・経済情勢が目まぐるしく変化するなか、ステークホルダーの皆様の実ニーズに応えるべく、当社グループの特性を活かしたCSR活動に、まさに地道に取り組んできました。また、報告・開示方法も、幅広いステークホルダーの皆様によりわかりやすく、より詳細な情報が伝わるよう、Webを併用するなどさまざまな工夫に努めてきました。

先般、上場企業に対する企業統治の指針として「コーポレートガバナンス・コード」が策定され、2015年6月から適用が開始されました。このコードでは、株主との関係のみならず、「株主以外のステークホルダーとの適切な協働」「適切な情報開示と透明性の確保」などの実践を求めており、いわゆるESG（環境・社会・統治）分野への積極的・能動的な対応や、正確でわかりやすく有用性の高い非財務情報の開示・提供などが重視されています。

前述のように、当社グループは従来から情報開示やステークホルダーの皆様との対話を大切にしてきました。「CSR活動のさらなる進化」には、ステークホルダーの皆様からのご意見・ご評価に真摯に耳を傾け、PDCAサイクルを回していくことが必要不可欠だからです。今後もこうした取り組みを継続し、広く社会から信頼される企業グループであり続けたいと考えています。



常務執行役員 藤田 義治

## 経営理念に基づくCSRの実践

芙蓉リースグループは、経営理念に基づき、「リース事業を通じて企業活動をサポートし、社会の発展に貢献する」ことを優先的に取り組むべきCSR活動と位置づけ、その実践にグループ一丸となって取り組んでいます。

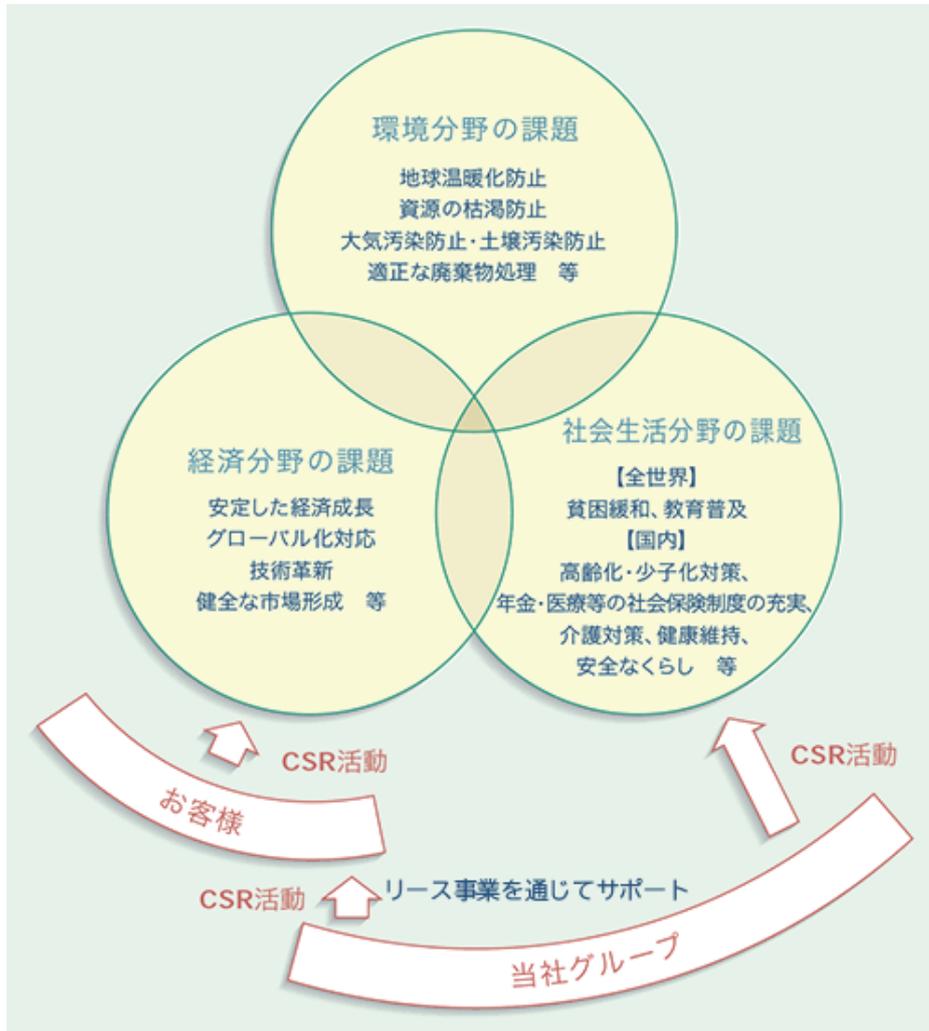
## リース事業を通じた社会への貢献

リースをはじめとした各種の金融機能を駆使して、環境や社会問題の解決に向けたお客様の設備投資をサポートしています。また、リース満了物件の3R（リデュース・リユース・リサイクル）を通じて、循環型社会の構築に寄与しています。

## 各種の金融機能で、環境や社会問題の解決に向けたお客様の設備投資をサポート

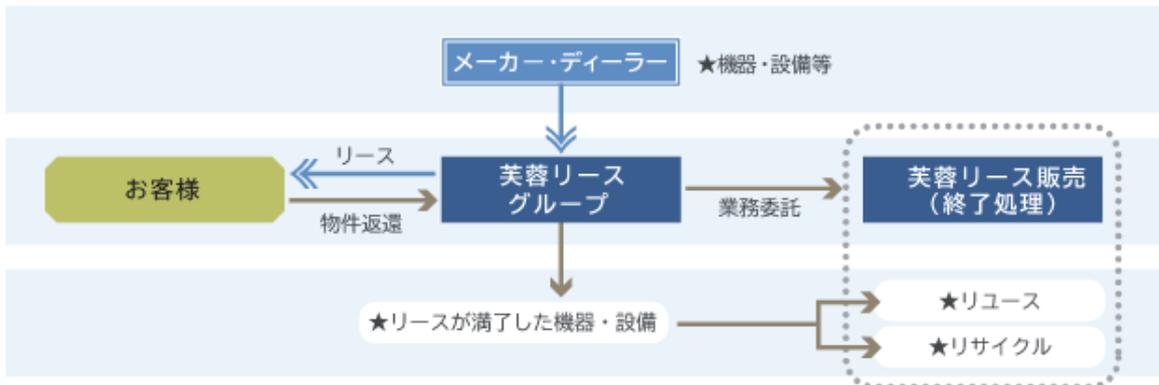
芙蓉リースは、社会が抱えるさまざまな課題の解決につながるお客様の設備投資を、各種の金融機能によってサポートしています。

例えば、環境分野では、省エネ関連機器や再生可能エネルギー設備のリース、エコカーのリース、ESCOサービスなどを、また社会生活分野では、医療機器や食品関連機器、航空機や鉄道、防災・防犯関連機器などをリースし、環境にやさしく、健康で安全な暮らしを支えています。



## リース満了物件の3Rを推進し、循環型社会の構築に寄与

リースが満了して芙蓉リースに返却された機器・設備などに対する、リデュース(廃棄物の発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再生利用)を推進し、循環型社会構築に寄与しています。



## 「CSR行動指針」と2016年度の目標値

### ● CSR行動指針

FUYO LEASEグループは、「人と地球にやさしい」事業に真摯に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献したいと考えています。

- ① 環境関連分野におけるリースや商品・サービスを、積極的に提案・提供します。
- ② 再生可能エネルギー事業者として、クリーンエネルギーの供給を推進します。
- ③ 3Rの実践領域を拡大し、廃棄物の発生を抑えた循環型社会の実現に寄与します。
- ④ アクア・アート事業を通じて、オフィスや街中、そして都会の子供たちに「自然に触れる機会」と「笑顔」を届けます。

### ● 2016年度の目標値

項目	目標値
環境提案(件数)	2,300件
環境配慮型物件の取得(金額)	100億円
クリーンエネルギーの供給(出力規模)	100MW
リマーケティング(買取物件数)	100,000件
アクア・アート(稼働台数)	900台

STEP  
1

### 課題の抽出、影響範囲・程度の整理

- ① ガイドラインとの照合  
GRIや環境省のガイドラインを参照し、課題をリストアップ
- ② 抽出した課題と事業・地域セグメントとの関係性の検討  
売上など、規模の大きい事業に関連する課題を優先

STEP  
2

### 重要度の分析

- ① ステークホルダーとの意見交換  
ステークホルダーの関心が高い課題を優先
- ② Webサイトへのアクセス状況の確認  
アクセス数が多く、関心が高いと考えられる課題を優先
- ③ 外部評価機関の要求  
外部評価機関のアンケート調査などで質問頻度が高い課題を優先
- ④ 自社グループにおける重要性  
事業特性から自社グループで重要と考える課題を優先

STEP  
3

### 妥当性の確認

評価方法、測定方法の正確さ、信ぴょう性による選別  
STEP1~2を経て優先順位を決めた課題について、  
憶測や形骸化したものは排除し、正しく実態のあるものを選定

STEP  
4

### 重要な課題の特定

トップマネジメントのレビュー  
STEP1~3を経て選定した課題に対し、トップマネジメントがレビューし特定

# 芙蓉リースグループとステークホルダー

## ■ 芙蓉リースグループとステークホルダー

当社グループは、従業員がやり甲斐を持って働くことのできる環境を提供し、従業員のさまざまな能力を高めていくことが、重要な戦略のひとつと考えています。

当社グループは、すべての従業員に公正で明るい職場を提供し、成果に応じた処遇を行なっています。

当社グループのお客様は、ユーザーのほか、メーカー・ディーラーなど広い範囲にわたります。

当社グループは、誠実かつ公正な企業活動の遂行によって、お客様に対し最高のサービスのご提供に努めています。

当社グループは、株主の皆様に対し長期的・安定的な利益還元に努めることを基本方針としています。また、適時・適正・公平な情報開示を原則とし、透明性の高い経営を目指しています。

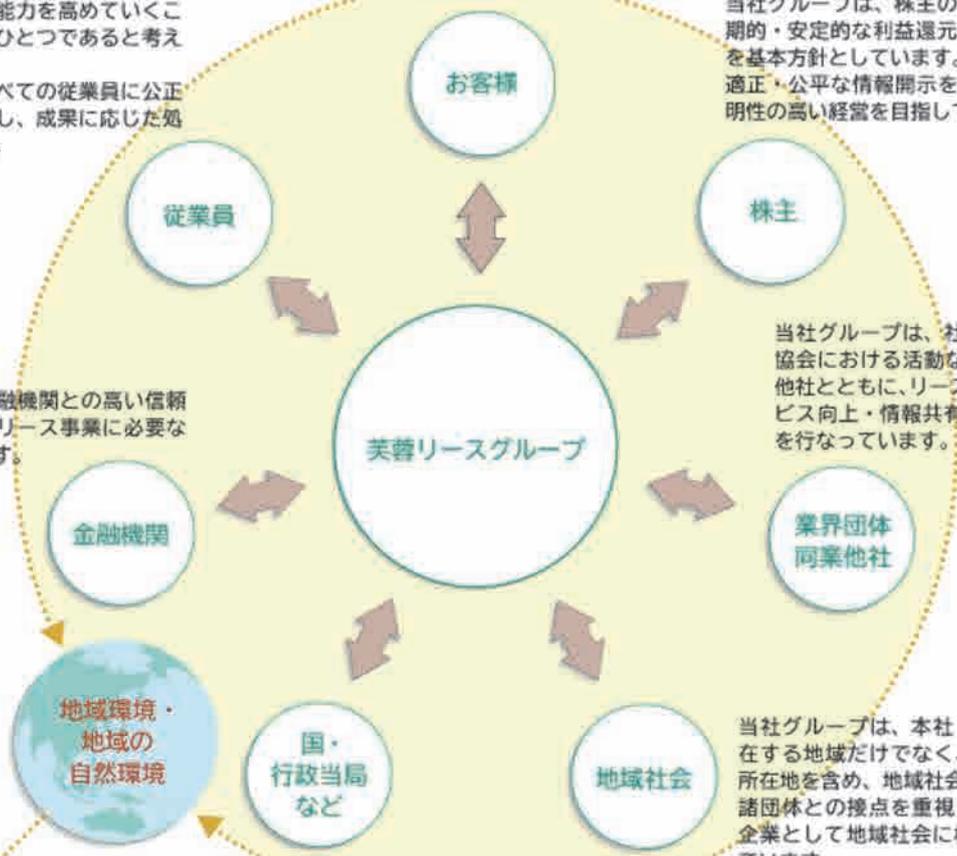
当社グループは、金融機関との高い信頼関係を維持しつつ、リース事業に必要な資金を調達しています。

当社グループは、社団法人リース事業協会における活動などを通じて、同業他社とともに、リース事業の充実とサービス向上・情報共有などに向けた活動を行なっています。

当社グループは、地球環境問題・地域の自然環境問題に対処するため、リース事業を通じて環境への取り組みを積極的に推進するとともに、自らの環境負荷の低減に努めています。

当社グループは、日本国や業務の所管省庁、地方公共団体と適切な関係を保持します。また、海外現地法人所在地の国家や行政当局などとも健全な関係を維持しています。

当社グループは、本社・支店などが所在する地域だけでなく、リース物件の所在地を含め、地域社会の方々・企業・諸団体との接点を重視し、責任ある一企業として地域社会に根ざして活動しています。



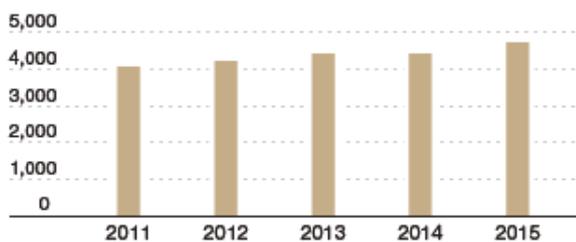
# 会社概要

## 企業データ(2015年3月31日現在)

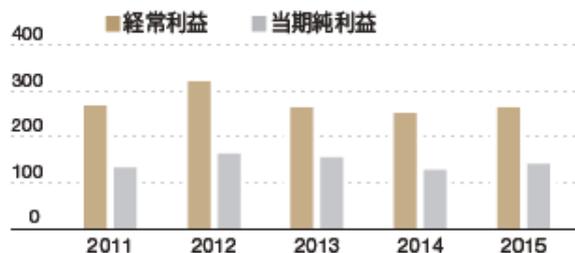
商号	芙蓉総合リース株式会社 (Fuyo General Lease Co., Ltd.)
設立	1969年5月1日
資本金	10,532百万円
上場市場	東京証券取引所 市場第一部(コード:8424)
従業員数	連結1,542名、単体669名
本社所在地	東京都千代田区三崎町3丁目3番23号(ニチレイビル) TEL:03(5275)8800(代)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>● 情報関連機器、事務用機器、産業機械、工作機械、商業用店舗設備、医療機器、船舶/航空機/車両ならびに輸送用機器、建築土木機械などのリースおよび割賦販売業務</li><li>● 金銭の貸付、その他各種金融業務</li><li>● 不動産リース</li><li>● 生命保険の募集業務</li><li>● 各種コンサルティング業務</li></ul>
営業拠点	<ul style="list-style-type: none"><li>● 国内:本社営業部および16拠点</li><li>● 海外現地法人:5社6拠点</li></ul>
主な国内連結子会社	<ul style="list-style-type: none"><li>● 芙蓉オートリース株式会社</li><li>● 株式会社エフ・ジー・エル・サービス</li><li>● 株式会社芙蓉リース販売</li><li>● 株式会社アクア・アート</li><li>● 株式会社エフ・ネット</li><li>● シャープファイナンス株式会社</li></ul>

業績などの推移(連結) ※3月決算

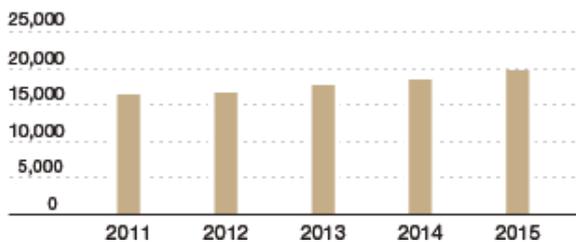
■ 売上高 (単位: 億円)



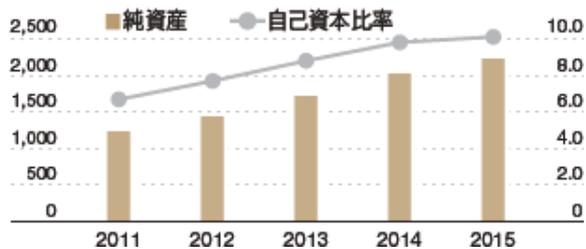
■ 経常利益/当期純利益 (単位: 億円)



■ 総資産 (単位: 億円)



■ 純資産 (単位: 億円) 自己資本比率 (単位: %)



(単位: 百万円)

	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
売上高	408,510	421,491	442,557	441,691	472,262
営業利益	25,119	28,654	24,786	23,174	24,517
経常利益	27,127	32,092	26,434	25,381	26,474
当期純利益	13,466	16,489	15,647	12,981	14,203
総資産	1,653,967	1,668,631	1,764,310	1,851,925	1,987,610
純資産	125,239	144,773	173,752	202,636	222,501
自己資本比率	6.7%	7.7%	8.8%	9.8%	10.1%

及び当該ページにて、詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

# 事業概要



各種の金融機能を駆使して、設備投資をサポート。  
お客様の視点に立った最適なソリューションを提案しています。

リース(LEASE)とは、広義には賃貸借を意味しますが、リース会社を取り扱っているリースは「お客様が必要とする機械や設備をお客様に代ってリース会社が購入し、比較的長期にわたり一定のリース料でお客様にその物件を賃貸する取引」をいいます。

芙蓉リースでは、このリースによってOA機器から船舶・航空機に至るまで幅広い物件を提供しています。また、税務面でリースに適さない一部の物件や、お客様が所有を希望される物件については、割賦販売やファイナンス(融資)など、さまざまな金融機能を使ってお客様をサポートしています。

これらサービスの提供にあたっては、お客様の課題やニーズにとことん向き合い、既存の枠組みにとらわれることなく柔軟に対応することで、お客様の視点に立った最適なソリューションを提案しています。

## 環境先進企業を めざして



サンデンフォレスト「生物多様性」研修／野外散策

芙蓉リースグループでは、「リース事業を通じて企業活動をサポートし、社会の発展に貢献する」という経営理念のもと、環境配慮型商品やサービスの提案と事業活動における環境負荷の低減を積極的に推進し、「環境先進企業」への進化に挑戦しています。

### 環境リスク管理

廃棄物の処理に関する法令の遵守はもとより、リース満了物件の処分委託先への現地調査などを実施し、廃棄物処理に関わる環境リスクの低減を進めています。

#### リース満了物件の廃棄処理を適正に実施

芙蓉リースでは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」(廃棄物処理法)などの法令を遵守し、再利用することができないリース満了物件を適正に廃棄しています。

また、処分委託先の処理方法やリサイクルの取り組みなどを確認する調査を計画的に実施するとともに、マニフェスト(産業廃棄物管理票)※の管理・運用を徹底しています。

※ マニフェスト: 廃棄物の処理が適正に実施されたかを確認するための書類または電子データ。排出事業者には、廃棄物処理法に基づき、マニフェストを交付・回収または登録して廃棄物が適正に処理されたかを確認する義務が課せられています。

詳しくは、芙蓉リースが事務処理を委託しているグループ会社／芙蓉リース販売の[廃棄物の適正処理](#)をご覧ください。

## 自社の省エネ・省資源、情報公開、社員の環境意識

最新IT機器の導入による省エネ・省資源活動や環境会計に基づく環境情報の公開、さらには社員一人ひとりの環境意識を高め、自発的な取り組みを促す活動を積極的に進めています。

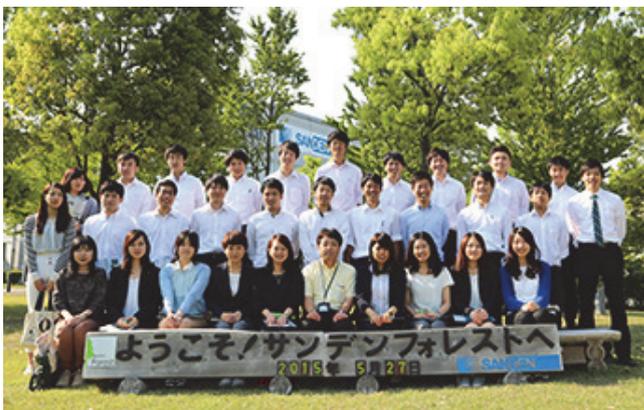
### 環境教育を推進

#### サンデンフォレストで「生物多様性」を学ぶ

芙蓉リースでは、環境教育の一環として、新入社員研修に「生物多様性」を学ぶ体験学習を2013年度から導入しています。カーエアコンのコンプレッサーにおいて世界シェア25%のサンデン株式会社の全面的な協力を得て、2013年は19名、2014年は20名、2015年は30名の新入社員が、いずれも5月に「サンデンフォレスト・赤城事業所」を見学。リース会社の社員が、日頃体感する機会の少ない「生物多様性」について学びました。

サンデンフォレストは、「環境と産業の矛盾なき共存」というコンセプトのもと、民間初の大規模な「近自然工法※」を導入して、2002年に群馬県赤城山麓に開設された事業所です。東京ドームの15倍に及ぶ敷地の半分が森林として整備され、継続的な調査によって生物多様性の改善が確認されています。研修では、同事業所の生産工程における各種の環境対策を見学した後、周辺の森やビオトープを散策。サンデン株式会社の先進的な「環境への取り組み」を実地で学んだ本研修は、新入社員にとって「環境に配慮した事業活動の重要性を認識する」貴重な体験となっています。

※ 近自然工法：自然本来の回復力で生態系を復元できるよう、人間の手でその最初の段階をつくりあげる工法のこと



サンデンフォレスト・赤城事業所

### 電子会議システムでオフィスのペーパーレス化を推進

芙蓉リースでは、業務の効率化と環境負荷の低減をめざして、大型ディスプレイを使用した電子会議システム「テレオフィス」を導入しています。

このシステムは、会議資料やホワイトボードに書かれた内容を手元の端末でリアルタイムに共有でき、タッチペンで追記・削除することも可能なため、会議のペーパーレス化を推進できます。また、遠隔地の支店との活発な議論とスピーディーな意思決定をサポートするさまざまな機能を備えており、出張回数の削減によるCO<sub>2</sub>排出量の削減も図れます。

また、大型のタッチディスプレイ「BIG PAD」を芙蓉リースの本支店で導入してさまざまな会議で活用。さらなるペーパーレス化を促進しています。



「テレオフィス」を使ったペーパーレス会議



ISO14001更新審査で活用した「BIG PAD」

## オフィスを中心に節電対策を徹底

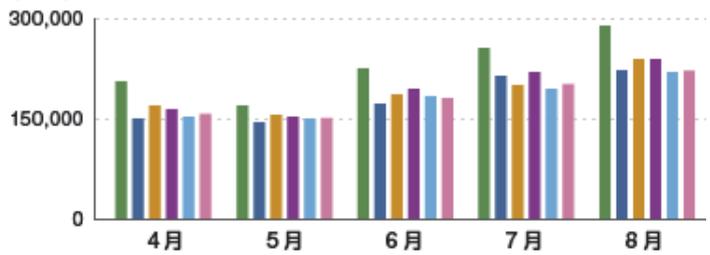
芙蓉リースは、従来から、使用していない会議室・トイレの消灯や30分以上離席する場合のPC電源のオフなど、さまざまな節電活動に取り組んできました。

東日本大震災の発生以降は、その取り組みをいっそう強化し、夏季の空調温度の管理(28℃以上)やオフィス照明の2分の1間引きを全社で徹底しています。2013年度以降は「クールビス」期間を拡大し、毎年5月1日から10月末まで実施しています。また、18時までの退社を推奨する「夏季ノー残業月間」も実施しています。

2015年度も、これらの節電活動を引き続き実施しました。

■ 芙蓉リースグループ※の夏季における電気使用量の推移

(kWh) ■ 2010年 ■ 2011年 ■ 2012年 ■ 2013年 ■ 2014年 ■ 2015年



2011年と2010年比	74%	86%	77%	84%	77%
2012年と2010年比	83%	92%	83%	78%	83%
2013年と2010年比	80%	91%	87%	86%	83%
2014年と2010年比	75%	89%	82%	76%	76%
2015年と2010年比	77%	89%	80%	79%	77%

※ 芙蓉リース本支店およびグループ6社(芙蓉オートリース、エフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売、アクア・アート、エフ・ネット、ワイ・エフ・リーシング)の使用量の合計

## 環境会計制度を導入して活動の成果を公開

芙蓉リースグループは、自らの環境パフォーマンスの向上を図るだけでなく、お客様の環境パフォーマンスの向上に役立つサービスの提案に力を入れています。

また、そうした環境活動の成果を定量的に評価するとともに、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様へ評価結果をわかりやすく報告するため、**環境会計**※1を導入しています。2014年度も前年度に続き、環境配慮型物件のリースや再生可能エネルギーなどのプロジェクトファイナンスを推進した結果、お客様のCO<sub>2</sub>排出削減に貢献(当社試算)できましたが、前年度の貢献量には及びませんでした。しかしながら、自らのCO<sub>2</sub>排出量の抑制については、前年度を上回る成果を上げることができました。

なお、当社は2014年度も前年度に続き4年連続で、株式会社日本政策投資銀行の「DBJ環境格付※2」で最高ランクの格付を取得しました。環境に配慮したリースやサービスの提供推進、また、リース満了物件などの3R体制整備の取り組みなどが評価されたもので、環境会計情報や各種パフォーマンス指標を開示していることも大きな評価ポイントとなりました。

今後も環境活動を強化し、その成果を積極的に開示していきます。

※1 環境会計: 環境会計とは、企業などが、事業活動で環境保全に投じたコストと、その活動によって得られた効果を認識し、できる限り定量的に測定、伝達する仕組みです。

※2 DBJ環境格付: 株式会社日本政策投資銀行が開発した格付システムで、企業の環境経営度を評点化して採点します。採点に応じて、同行から優遇金利で融資を受けることができます。



当社は、2015年1月に日本政策投資銀行(DBJ)より環境格付融資を受け、格付結果は「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」と評価されました。

# 環境理念／環境方針

## 環境理念

芙蓉リースグループは、「リース事業を通じて企業活動をサポートし、社会の発展に貢献する。」という経営理念に基づき、地球環境の保全に配慮して行動し、環境方針に沿って環境問題への取り組みを推進していきます。

## 環境方針

### 1. リース事業を通じた地球環境保護

リース、レンタル、金融などの事業活動において地球環境保護に寄与する商品・サービスの提供に努めます。

### 2. 省資源・省エネルギー活動の推進

事業活動に伴う環境負荷を認識し、省資源・省エネルギー活動およびグリーン購入に努めます。

### 3. 循環型社会構築への寄与

リース終了物件などに対するリユース、リサイクルを推進し、廃棄物の発生抑制と適正処分に努めます。

### 4. 環境関連法令などの順守

環境に関する法令や、芙蓉リースグループが同意した協定などを順守します。

### 5. 環境マネジメントシステムの確立

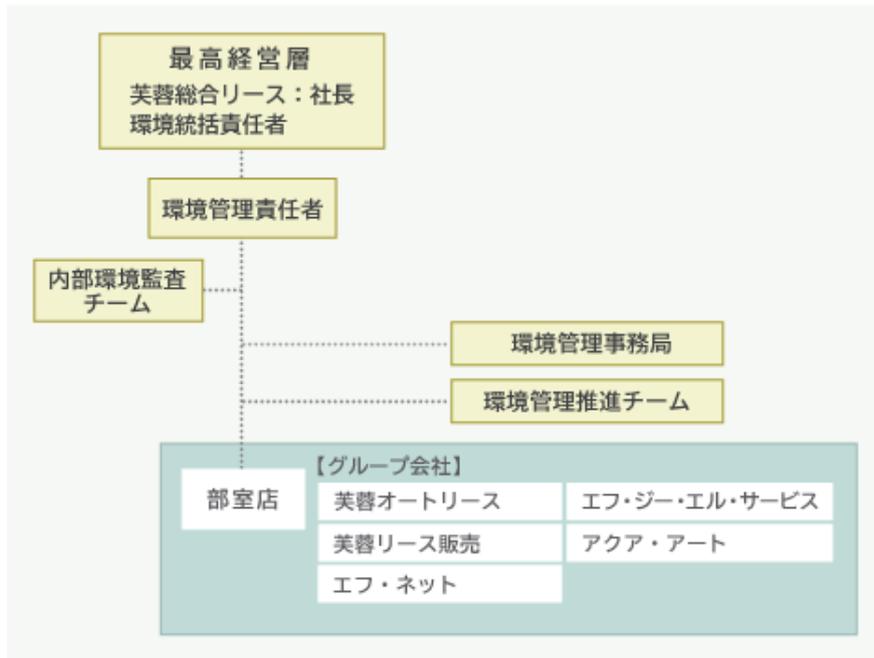
環境マネジメントシステムの継続的な改善を図り、環境目標を設定して環境汚染の予防に努めます。

# 環境マネジメント

## 環境マネジメントシステム

芙蓉リースグループでは、芙蓉総合リースの社長を最高責任者、コーポレートコミュニケーション室担当役員を環境統括責任者とし、グループ会社も含めた環境マネジメントシステム体制を構築しています。

### ■ 環境マネジメントシステム体制



## ISO14001認証取得

芙蓉リースとグループ会社では、2006年7月に主な事業所でISO14001 [▼用語解説](#) の認証を取得し、2015年6月には、3度目の更新審査に合格しました。

現在の認証範囲は下記のとおりです。今後も、環境配慮型経営を実現するため、環境マネジメントシステムの確実な運用に努めていきます。

## ISO14001 認証取得範囲

- 芙蓉総合リース 本社、大阪支店(リース業、割賦販売、融資その他の金融サービス業務、生命保険の募集業務)
- 芙蓉リース販売 本社、東京3Rセンター(再リース契約代行処理、リース終了物件の売却・廃棄業務代行)
- エフ・ネット 本社、深川テクニカルセンター(電子計算機・ソフトウェア・通信機器の販売)
- エフ・ジー・エル・サービス(損害保険代理業、営業事務の受託、総務・庶務事務の受託)



付属書1

ISO14001 マネジメントシステム登録証

## 内部環境監査・外部審査

芙蓉リースグループは、内部環境監査や外部審査などを活用し、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めています。

### 内部環境監査

従来は、毎年全ての部室店・グループ会社に対して内部環境監査を実施してきましたが、環境マネジメントシステムがグループ全社に浸透してきたことから、2012年度以降は、約半数にあたる部室店・グループ会社に対して、年度交代で内部環境監査を実施しています。

内部環境監査で指摘のあった書類の未整備など軽微な不適合は、監査時に整備を完了しています。

### 内部環境監査

		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
被監査部署	本社部室	37部室	38部室	20部室	19部室	19部室
	支店	22支店	21支店	11支店	3支店	—
	グループ会社	7社	6社	3社	3社	1社
重大な不適合		0件	0件	0件	0件	0件
軽微な不適合		1件	1件	1件	0件	0件
改善の機会※		28件	28件	3件	0件	0件
優良事項		57件	57件	22件	2件	5件

※ 改善の機会: 今後、良くするためのアドバイス

## 外部審査

2015年6月に、ISO14001の外部審査を受けました。審査結果やご指導いただいた点を参考に、今後も継続的な改善に取り組んでいきます。

### 外部審査の結果

審査結果	2011年7月	2012年6月	2013年7月	2014年6月	2015年6月
ストロングポイント	0件	1件	3件	2件	1件
グットポイント	4件	5件	5件	4件	6件
改善の機会※	5件	6件	4件	0件	3件
改善指摘事項	0件	0件	0件	0件	0件

※ 改善の機会: 今後、良くするためのアドバイス

## 環境教育

芙蓉リースグループでは、環境マネジメントシステムに対する理解や環境関連の知識・技能の向上を図るために、環境教育を定期的に実施しています。

2014年度の実施状況は下表のとおりです。

### 環境教育の実施状況

#### 環境教育の実施状況(2014年度)

	名称	実施時期	参加人数
社員研修	環境eラーニング	2014年4月～2014年5月	957名
	東京3Rセンター研修	2014年10月～2014年2月	53名
	サンデンフォレスト生物多様性研修	2014年5月	新入社員21名

2014年度は、全社員を対象にした環境eラーニングで、最新の環境関連情報や環境法令などの知識向上を図ったほか、新入社員と希望者を対象に東京3Rセンター研修を計3回実施し、リース満了物件に対する3R実践現場の見学を通して当社グループの環境対策への理解向上を図りました。

また、芙蓉リースでは、2013年度から環境教育の一環として、新入社員研修に「生物多様性」を学ぶ体験学習を新たに導入しました。

詳しくは[こちら](#)をご覧ください。



東京3Rセンター研修

#### eco検定の受験奨励

芙蓉リースグループでは、社員の環境意識を高めるために、環境社会検定試験(eco検定)の受験を奨励しています。

2014年度の合格者は3名で、2015年3月末時点の合格者総数は184名になりました※。

※ 連結子会社のシャープファイナンスでは、上記とは別に70名が合格しています。

## 環境関連法令の順守

点検結果	件数
法令違反	0件
環境に関する苦情	0件

芙蓉リースグループは、各種の環境教育活動などを通じて、すべての役員・社員に環境関連法令を順守するよう徹底しています。

また、環境関連法令の順守状況を点検する環境関連法令のコンプライアンスチェックを定期的に行っています。

2014年度は、2015年2月に2014年2月～2015年1月までの順守状況を点検し、「法令違反」「環境に関する苦情」ともに該当する事例がないことを確認しました。

### 用語解説

#### ISO14001

ISO14001とは国際標準化機構(International Organization for Standardization)が定めた環境マネジメントシステムの仕様に関する世界標準の規格です。

国際標準化機構は、国際規格を作成する民間団体で、スイスに本部があります。

# 環境会計

## 自らの環境保全対策に関する環境会計(※1)

芙蓉リースグループの環境保全の取り組みを評価するため、基本的に環境省の「環境会計ガイドライン」の考え方に従い、取り組みごとに環境保全コストや環境保全効果を把握しています。

— : 該当データはありません

□ : 当環境会計では計上していません

### ■ 2014年度

取り組み内容	環境目的		環境保全コスト		環境保全効果		環境保全対策に伴う経済効果(万円)
			投資(万円)	費用(万円)	CO <sub>2</sub> 排出削減量(ton-CO <sub>2</sub> )※2	廃棄物排出削減量(ton)	
省資源・省エネルギー活動の推進	電気使用量の削減	省エネ機器導入、エコオフィス活動等	0	0	89	-	131
		グリーン電力の購入		0	0	-	
	コピー・プリント用紙使用量の削減				-	2.8	2
	社用車の燃料消費・排ガスの削減			0.9	33	-	204
循環型社会構築への寄与	リース終了物件の処分の堅確な事務体制の構築			18,015※3	-	293※4	51,810
環境マネジメントシステムの確立	グループで、ISO14001の認証取得とその維持、拡大			2,852			
	環境教育の定期的実施						
	CSR報告書等による環境活動情報の発表						
	地域の環境教育に貢献※5			680			
合計			0	21,548	122	296	52,147

■ 2013年度

取り組み内容	環境目的		環境保全コスト		環境保全効果		環境保全対策に伴う経済効果(万円)
			投資(万円)	費用(万円)	CO2排出削減量(ton-CO2)※2	廃棄物排出削減量(ton)	
省資源・省エネルギー活動の推進	電気使用量の削減	省エネ機器導入、エコオフィス活動等	0	0	-140	-	-99
		グリーン電力の購入		0	0	-	
	コピー・プリント用紙使用量の削減				-	0.7	-25
	社用車の燃料消費・排ガスの削減			52.9	10	-	1
循環型社会構築への寄与	リース終了物件の処分の堅確な事務体制の構築			19,449※3	-	270※4	42,211
環境マネジメントシステムの確立	グループで、ISO14001の認証取得とその維持、拡大			2,892			
	環境教育の定期的実施						
	CSR報告書等による環境活動情報の発表						
	地域の環境教育に貢献※5			567			
合計			0	22,961	-130	270	42,088

■ 2012年度

取り組み内容	環境目的		環境保全コスト		環境保全効果		環境保全対策に伴う経済効果(万円)
			投資(万円)	費用(万円)	CO2排出削減量(ton-CO2)※2	廃棄物排出削減量(ton)	
省資源・省エネルギー活動の推進	電気使用量の削減	省エネ機器導入、エコオフィス活動等	0	0	-194	-	9
		グリーン電力の購入		0	0	-	
	コピー・プリント用紙使用量の削減				-	-0.7	310
	社用車の燃料消費・排ガスの削減			53.2	11	-	6
循環型社会構築への寄与	リース終了物件の処分の堅確な事務体制の構築			19,585※3	-	277※4	37,436
環境マネジメントシステムの確立	グループで、ISO14001の認証取得とその維持、拡大			2,665			
	環境教育の定期的実施						
	CSR報告書等による環境活動情報の発表						
	地域の環境教育に貢献※5			491			
合計			0	22,795	-183	277	37,761

■ 2011年度

取り組み内容	環境目的		環境保全コスト		環境保全効果		環境保全対策に伴う経済効果(万円)
			投資(万円)	費用(万円)	CO2排出削減量(ton-CO2)※2	廃棄物排出削減量(ton)	
省資源・省エネルギー活動の推進	電気使用量の削減	省エネ機器導入、エコオフィス活動等	0	0	115	-	587
		グリーン電力の購入		0	0	-	
	コピー・プリント用紙使用量の削減				-	1.4	25
	社用車の燃料消費・排ガスの削減			139.2	21	-	11
循環型社会構築への寄与	リース終了物件の処分の堅確な事務体制の構築			17,000※3	-	289※4	37,677
環境マネジメントシステムの確立	グループで、ISO14001の認証取得とその維持、拡大			3,752			
	環境教育の定期的実施						
	CSR報告書等による環境活動情報の発表						
	地域の環境教育に貢献※5			491			
合計			0	21,383	136	291	38,300

■ 2010年度

取り組み内容	環境目的		環境保全コスト		環境保全効果		環境保全対策に伴う経済効果(万円)
			投資(万円)	費用(万円)	CO2排出削減量(ton-CO2)※2	廃棄物排出削減量(ton)	
省資源・省エネルギー活動の推進	電気使用量の削減	省エネ機器導入、エコオフィス活動等	0	0	159	-	33
		グリーン電力の購入		0	0	-	
	コピー・プリント用紙使用量の削減				-	-1.2	-23
	社用車の燃料消費・排ガスの削減			71.1	3	-	-134
循環型社会構築への寄与	リース終了物件の処分の堅確な事務体制の構築			16,079※3	-	333※4	29,755
環境マネジメントシステムの確立	グループで、ISO14001の認証取得とその維持、拡大			2,803			
	環境教育の定期的実施						
	CSR報告書等による環境活動情報の発表						
	地域の環境教育に貢献※5			378			
合計			0	19,331	162	332	29,631

※1 対象範囲は、芙蓉総合リース、芙蓉オートリース、エフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売、アクア・アート、エフ・ネット、ワイ・エフ・リーシングの国内全事業所です。

※2 CO2排出削減量は、「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」の排出係数を用いて算定しています。(電気については各年度の電気事業者別の実排出係数を用いて算定。)

※3 リユース、リサイクルに関わる経費と産業廃棄物処理業者の管理に関わる経費です。

※4 PCおよびTFT液晶のリユース、リサイクルによる効果です。

※5 インテリア水槽「AQUA ART」を、環境教育用として地元幼稚園などに寄贈(無償レンタル)するために要した費用です。

## リース事業を通じた地球環境保護に関する環境会計

芙蓉リースグループは、本業であるリース事業において地球環境保全に貢献するビジネスを行っており、これらの社会的な効果(お客様が享受する効果)を芙蓉リースグループ独自の算出方法によって試算しています。

— : 該当データはありません

□ : 当環境会計では計上していません

### 2014年度

取り組み内容	環境目的		環境関連商品・サービスのご提供※1	環境関連商品・サービスのご提供によってお客さまが削減できるCO2など(推計)※4	
				CO2排出削減量 (ton-CO2/年)※5	廃棄物排出削減量 (ton)
リース事業を通じた地球環境保護	環境配慮型物件の取得推進	環境配慮型物件※2	23億円	22,056	
		エコカー※3	4,747台	6,352	
	PC Eco & Valueリース契約などの成約推進		50,640台		348※6
	再生可能エネルギーなどのプロジェクトファイナンス推進		16億円	8,756	
合計				37,164	348

### 2013年度

取り組み内容	環境目的		環境関連商品・サービスのご提供※1	環境関連商品・サービスのご提供によってお客さまが削減できるCO2など(推計)※4	
				CO2排出削減量 (ton-CO2/年)※5	廃棄物排出削減量 (ton)
リース事業を通じた地球環境保護	環境配慮型物件の取得推進	環境配慮型物件※2	35億円	33,878	
		エコカー※3	6,072台	7,979	
	PC Eco & Valueリース契約などの成約推進		82,570台		458※6
	再生可能エネルギーなどのプロジェクトファイナンス推進		11億円	6,219	
合計				48,076	458

### 2012年度

取り組み内容	環境目的		環境関連商品・サービスのご提供※1	環境関連商品・サービスのご提供によってお客さまが削減できるCO2など(推計)※4	
				CO2排出削減量 (ton-CO2/年)※5	廃棄物排出削減量 (ton)
リース事業を通じた地球環境保護	環境配慮型物件の取得推進	環境配慮型物件※2	21億円	9,485	
		エコカー※3	7,289台	9,438	
	PC Eco & Valueリース契約などの成約推進		47,222台		306※6
	再生可能エネルギーなどのプロジェクトファイナンス推進		0億円	8	
合計				18,931	306

■ 2011年度

取り組み内容	環境目的		環境関連商品・サービスのご提供※1	環境関連商品・サービスのご提供によってお客さまが削減できるCO2など(推計)※4	
				CO2排出削減量 (ton-CO2/年)※5	廃棄物排出削減量 (ton)
リース事業を通じた地球環境保護	環境配慮型物件の取得推進	環境配慮型物件※2	22億円	6,237	
		エコカー※3	6,293台	8,167	
	PC Eco & Valueリース契約などの成約推進		48,674台		342※6
	再生可能エネルギーなどのプロジェクトファイナンス推進		0億円	0	
合計				14,403	342

■ 2010年度

取り組み内容	環境目的		環境関連商品・サービスのご提供※1	環境関連商品・サービスのご提供によってお客さまが削減できるCO2など(推計)※4	
				CO2排出削減量 (ton-CO2/年)※5	廃棄物排出削減量 (ton)
リース事業を通じた地球環境保護	環境配慮型物件の取得推進	環境配慮型物件※2	19億円	12,399	
		エコカー※3	5,507台	6,836	
	PC Eco & Valueリース契約などの成約推進		61,310台		350※6
	再生可能エネルギーなどのプロジェクトファイナンス推進		0億円	0	
合計				19,234	350

※1 2010年度～2014年度に契約した契約金額、台数などを掲載しています。

※2 芙蓉総合リースとワイ・エフ・リーシングを対象としています。芙蓉総合リースが環境配慮物件と定義している物件のうち、コージェネ、省電力設備、空調機器について効果を算出しています。

※3 芙蓉オートリースを対象としています。芙蓉オートリースがエコカーとして定義している物件のうち、低排出ガス車、ハイブリッド車、LPG車、電気自動車などについて効果を算出しています。

※4 一般的な設備などの価格とその効果との関係を利用して試算した効果であり、実際の効果とは異なります。

※5 環境配慮型物件(またはプロジェクト)によってお客様が1年間に削減できるCO2排出量です。次年度以降もそのリース物件(またはプロジェクト)を継続する場合、前年度と同等の効果が続きます。

※6 2010年度～2014年度に成約したPCがすべてリユースされた場合の効果です。

# 芙蓉リースグループの主な環境目標 (2014年度実績と2015年度目標)

芙蓉リースグループは環境目標の達成に向けて取り組んでいます。

評価: 目標を達成した場合は○、達成できなかった場合は×

環境方針	会社名	環境目的	2014年度目標	2014年度実績	評価	2015年度目標
地球温暖化対策 (省資源・省エネルギー活動の推進)	芙蓉総合リース、 エフ・ジー・エル・ サービス	リース事業協会の地球温暖化自主行動計画に参加	リース業における「低炭素社会実行計画」に参加 2020年度において、芙蓉総合リースの本社床面積当りの電気消費量を基準年度(2009年度)対比で10%削減する。	2009年度比 48.5%減	○	リース業における「低炭素社会実行計画」に参加 2020年度において、芙蓉総合リースの本社床面積当りの電気消費量を基準年度(2009年度)対比で10%削減する。
	グループ全社 (※1)	温室効果ガスの排出量の削減	2010年度水準を維持 (t-CO2)	2010年度比 4.5%増(※3)	×	2010年度水準を維持 (t-CO2)
1. リース事業を通じた地球環境保護	芙蓉総合リース	環境配慮型物件の取得推進	80億円	304億円	○	90億円
	芙蓉総合リース	PC Eco & Value リース・PCレンタル契約の成約推進	50億円	62億円	○	50億円
	芙蓉総合リース	環境関連商品・サービスの提案	1,900件	2,274件	○	2,100件
2. 省資源・省エネルギー活動の推進	グループ全社	電気使用量の削減	2010年度水準を維持 (kwh) ただし、電力供給事情を背景とした暫定処置として夏場の使用量を「2010年度比▲22%」とする。	2010年度比 18.4%減 夏場(4~8月)は、2010年度比 21.3%減	○	2010年度水準を維持 (kwh)
	グループ全社	コピー用紙使用量の削減	2010年度水準を維持 (購入枚数で測定)	2010年度比 8.2%減	○	2010年度水準を維持 (購入枚数で測定)
	芙蓉総合リース、 芙蓉オートリース、 アクア・アート	営業車燃料使用量の削減	2010年度水準を維持 (ℓ)	2010年度比 32.4%減	○	2010年度水準を維持 (ℓ)
	グループ全社	グリーン文具購入の推進	2010年度水準を維持 (%)	2010年度比 1.1%向上	○	2010年度水準を維持 (%)
3. 循環型社会構築への寄与	芙蓉リース販売	3Rの推進	30,000件	84,754件	○	60,000件
4. 環境関連法令などの順守	グループ全社	環境関連法令などの順守	環境関連法令などの順守評価を実施	順守評価を実施、違反・問題点なし	○	環境関連法令などの順守評価を実施
5. 環境マネジメントシステムの確立	グループ全社	ISO14001の認証の維持	ISO14001の認証取得範囲を見直し、芙蓉総合リース本社・大阪支店、芙蓉リース販売、エフ・ネットでISO14001の認証を維持する	2014年6月、ISO14001審査に合格、認証維持	○	ISO14001の認証を維持する
	グループ全社	CSR報告書を作成し、外部コミュニケーションを実施	第9回目のCSR報告(冊子、Web)を発表する  外部コミュニケーションを実施する	2014年10月発表  外部コミュニケーション実施	○	第10回目のCSR報告(冊子、Web)を発表する  外部コミュニケーションを実施する

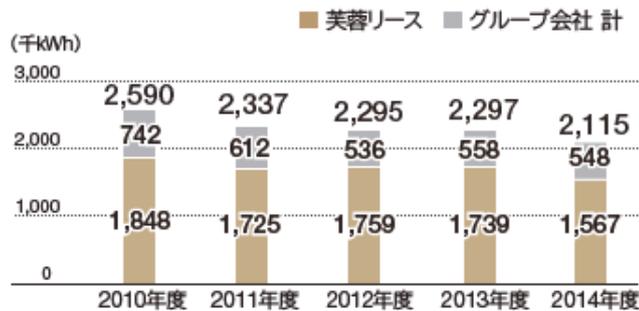
- ※1 グループ全社の範囲は、芙蓉総合リース、芙蓉オートリース、エフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売、アクア・アート、エフ・ネットの国内全事業所です。
- ※2 芙蓉リースグループのCO<sub>2</sub>排出量は、グループで測定をはじめた2007年度に比して、2010年度実績が既に18%減になっています。
- ※3 2012年度以降は、電気事業者の排出係数が大きくなったため、電気使用量が減少したにもかかわらず、CO<sub>2</sub>排出量が増加しています。

# 環境パフォーマンス

## 環境負荷低減の実績※1

事業活動における環境負荷の低減に努めています。

### ■ 電力使用量※2



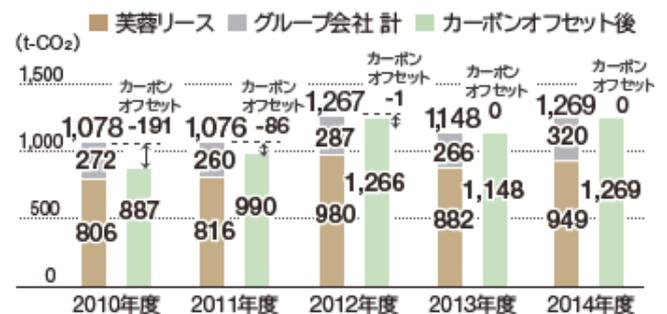
### ■ 営業車燃料使用量



### ■ CO2実排出量※3 (スコープ1, 2)



### ■ CO2調整後排出量※4 (スコープ1, 2)



### ■ CO2排出量(スコープ1, 2, 3)

	CO2排出量(t-CO2)		CO2総排出量に対する比率 (2014年度)
	2013年度	2014年度	
スコープ1	192	159	0.013
スコープ2	1,217	1,128	0.091
スコープ3	1,246,345	1,243,298	99.897
<b>CO2総排出量</b>	<b>1,247,754</b>	<b>1,244,585</b>	<b>100</b>

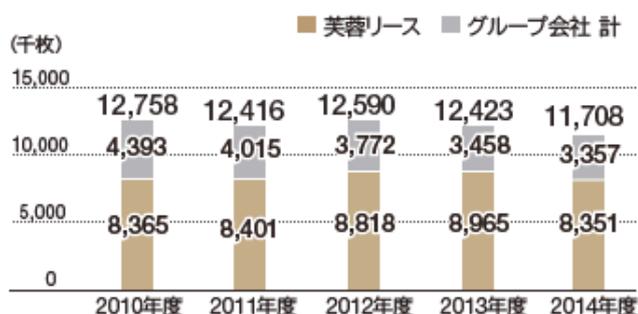
■ CO2排出量(スコープ3の内訳)

カテゴリー	CO2排出量(t-CO2)		CO2総排出量に対する比率 (2014年度)	算定方法/備考
	2013年度	2014年度		
1. 購入した製品・サービス	-	-		取扱い製品が多岐にわたるため製品ごとの金額の把握が困難であること、および排出量削減への影響力を及ぼすことも困難であることから、現状は算定範囲から除外しています。 ただし、リースに係る製品購入はすべて「2. 資本財」に算入しています。
2. 資本財	1,245,386	1,242,316	99.921	(購入金額×原単位)+(リース契約実行高×原単位※)
3. スコープ1、2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	110	98	0.008	スコープ1、2排出量算定における電力および化石燃料使用量×原単位※
4. 輸送、配送(上流)	-	-		メーカーから顧客までの輸送形態はメーカーからの直接配送のため把握が困難であること、および排出量削減への影響力を及ぼすことも困難であることから、現状は算定範囲から除外しています。
5. 事業から出る廃棄物	285	312	0.025	処理方法別の排出量×原単位※
6. 出張	198	201	0.016	従業員数×原単位※
7. 雇用者の通勤	366	371	0.030	都市区分別従業員数×営業日数×原単位※
8. リース資産(上流)	該当せず	該当せず	-	借りているオフィスのエネルギー使用はスコープ1、2に算入しています。
9. 輸送、配送(下流)	該当せず	該当せず	-	輸送費を負担していない物流はないため該当する排出はありません。
10. 販売した製品の加工	該当せず	該当せず	-	中間製品の取扱いはないため該当する排出はありません。
11. 販売した製品の使用	-	-		取扱い製品が多岐にわたるため製品ごとの販売先での使用状況は把握が困難であり、現状は算定範囲から除外しています。
12. 販売した製品の廃棄	-	-		取扱い製品が多岐にわたるため製品ごとの販売先での廃棄状況は把握が困難であり、現状は算定範囲から除外しています。
13. リース資産(下流)	-	-		取扱い製品が多岐にわたるため製品ごとのリース先での使用状況は把握が困難であり、現状は算定範囲から除外しています。

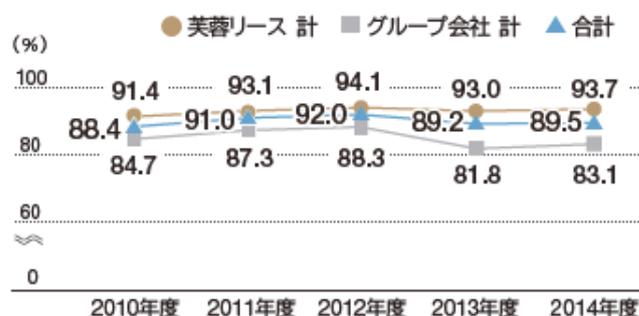
14. フランチャイズ	該当せず	該当せず	-	フランチャイズではないため該当する排出はありません。
15. 投資	-	-	-	投資部門別の金額の把握が困難であることから、現状は算定範囲から除外しています。
CO2総排出量	1,246,345	1,243,298	100	※原単位: 環境省「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス等の算定のための排出原単位データベース(ver.2.2)」、カテゴリ3のガソリンについては「カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム 基本データベースver.1.01(国内データ)」

スコープ3は、「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン(環境省、経済産業省)」に基づき、算定可能なカテゴリについて算定しています。

### ■ コピー用紙購入量※2



### ■ グリーン文具購入比率



※1 対象範囲は、芙蓉総合リース、芙蓉オートリース、エフ・ジー・エル・サービス、芙蓉リース販売、アクア・アート、エフ・ネット、ワイ・エフ・リーシングの国内全事業所。

※2 2012年度以降の電気使用量、コピー用紙購入量が芙蓉総合リースで増加し、グループ会社で減少しているのは、日本抵当証券が2012年4月1日に芙蓉総合リースと合併したためです。

※3 CO2実排出量は、「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」の排出係数を用いて算定。(電気については各年度の電気事業者別の実排出係数を用いて算定。)ただし、芙蓉リース、およびグループ各社は、特定排出者には該当しません。  
なお、2012年度以降は電気事業者の排出係数が大きくなったため、電気使用量が減少・横這い状態にもかかわらず、CO2排出量が増加しています。

※4 CO2調整後排出量は、「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」の排出係数を用いて算定。(電気については各年度の電気事業者別の調整後排出係数を用いて算定。)さらに、芙蓉リースが京都メカニズムクレジット(CER)を取得し国へ移転した量を差し引いた値を、「カーボン・オフセット後」として表示してあります。

## カーボンオフセット※1

芙蓉リースでは、温室効果ガス排出の自主削減の取り組みとして、排出権359(t-CO<sub>2</sub>)を日本政府に寄付し、2012年の本社ビル電気使用量の一部と2012年の「PC Eco & Valueリース」「PCレンタル」の契約をいただいたパソコン1台あたりCO<sub>2</sub>排出量10(kg-CO<sub>2</sub>)について、カーボン・オフセットを実施しました。この取り組みは2008年度より毎年続けてきましたが、京都議定書の第一約束期間が2012年12月末で終了したため、2012年で終了しました。

### ■ 2012年度



### ■ 2011年度



### ■ 2010年度



### ■ 2009年度



### ■ 2008年度



芙蓉総合リースはCER※2と呼ばれる京都議定書に基づいた国連認証の排出権クレジット※3を購入し、日本国に寄付しています。

### ■ 2008年度～2012年分として芙蓉総合リースが日本国に寄付したCERの内訳

対象プロジェクト	国連CDMプロジェクト番号
韓国のウルサン市における代替フロン破壊事業	0003
インドのタミナドゥ州における風力発電事業	0991
中国山東中気化工科技有限公司におけるHFC23分解事業	1194

※1 カーボン・オフセットとは、日常生活や経済活動で避けることのできない温室効果ガスの排出について、はじめに排出削減努力を行い、それでも削減が難しい場合に、排出権の購入や植林支援などで、自らの排出量の全部または一部を「埋め合わせる」ことです。

※2 CERとは、認証排出削減量(Certified Emission Reductions)のことで、京都議定書で規定された途上国への地球温暖化対策のための技術・資金援助スキームであるクリーン開発メカニズム(CDM)のルールに則って温室効果ガスを削減し、その排出削減量に基づき発行される国連認証のクレジットです。

※3 クレジットとは、温室効果ガスを削減した量を示す「証明」のことです。いわゆる「排出枠」の1つで、温室効果ガスの排出削減プロジェクトを実施すると見返りに獲得できます。

# 環境配慮型商品・サービスの一覧

## 環境に配慮した商品・サービス

リースやファイナンスを通じて、省エネの実現に向けた設備投資をサポートします。各種補助金制度の活用やサプライヤーの紹介など、芙蓉リースならではのバックアップ体制も充実しています。

### 省エネ設備／補助金リース □

リースを使った省エネルギー対策を提供しています。

### ESCO事業 □

ESCO事業者として省エネルギー活動をトータルにサポートしています。

### 再生可能エネルギー事業者向けファイナンス □

再生可能エネルギー分野において各種ファイナンスサービスを提供しています。

## 3Rを推進し環境に貢献するサービス

3R(リデュース、リユース、リサイクル)を通じて循環型社会の構築に寄与するとともに、お客様に経済的なメリットも提供します。

リースアップしたパソコンなどのリユースはもちろん、お客様が保有する中古資産の買い取りなど、さまざまなサービスを提供しています。

### PC Eco & Valueリース □

エコノミー&エコロジーを追求したパソコンのリースをご提供しています。

### PCレンタル □

目まぐるしいパソコンの技術革新に柔軟に対応するレンタルシステムを提供しています。

### 中古パソコン買取サービス □

中古パソコンの買い取りを行っています。

### 中古資産買取サービス □

不要設備・遊休資産の買い取りを行っています。

芙蓉総合リースグループすべての「商品・サービス一覧」はこちらをご覧ください。 □

# お客様満足度の向上

## お客様満足度向上のために

芙蓉リースグループでは、「顧客第一主義に徹し、最高のサービスを提供する」という経営理念を掲げ、お客様の多様なニーズに柔軟かつ迅速に対応できるサービスの提供に努めています。

## お客様の事務効率向上に貢献するデータサービス「FLOW」を提供

芙蓉リースでは、お客様に付加価値を提供するサービスのひとつとして、Webサイト上でリース契約管理ができる独自のデータサービス「FLOW」を提供しています。

「FLOW」は、契約情報や会計参考資料をWeb上で照会・ダウンロードするため、事務の効率化が図れるメリットがあります。



リース物件はリース会社の資産ですが、お客様のオフィスや店舗、工場などに設置され、お客様が所有している資産と同様に使用・管理されています。

そこで、お客様の現物管理全般をお手伝いするクラウド型資産管理サービス「FLOW-Cube」も、「FLOW」のオプションとして提供しています。

バーコードやモバイル端末の活用など、お客様のニーズに合わせてサービスを強化しています。

[FLOW 芙蓉総合リースWebサービス](#)

[FLOW-Cube](#)

## 金融ADR制度への対応

金融トラブルの迅速・柔軟・簡便な解決をめざす「金融ADR制度（金融分野における裁判外紛争解決制度）」が2010年4月に創設され、一定の金融サービスを提供する業者に対して、指定紛争解決機関がある場合にはその機関との間で手続実施基本契約を締結し、指定紛争解決機関がない場合には苦情処理・紛争解決措置を講ずることが義務づけられました。

当社は、貸金業に関して、指定紛争解決機関との間で手続実施基本契約を締結し、指定紛争解決機関がない第二種金融商品取引業に関して、苦情処理・紛争解決措置を講じています。

詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

## 情報セキュリティ(ISO27001認証の取得)

### お客様情報の管理

芙蓉リースグループでは、情報管理体制を構築し、お客様の情報を厳格に管理しています。

情報セキュリティ強化の一環として、次の部署およびグループ会社で、情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格である「ISO27001」[▼用語解説](#)」の認証を取得しています。

- 芙蓉リース 公共法人室
- エフ・ネット 本社および深川テクニカルセンター
- 芙蓉リース販売 東京3Rセンター

詳しくは[こちら](#)  をご覧ください。



IS561675/ISO27001  
【認証登録範囲】  
第三営業部公共法人室による  
公共法人およびその関連法人  
向けリース業務

### 用語解説

#### ISO27001

ISO27001とは国際標準化機構が定めた情報セキュリティマネジメントシステムの仕様に関する世界標準の規格です。

# IRに対する考え方

## 基本的な考え方

芙蓉リースは、2004年12月から東京証券取引所市場第一部に上場しており、経営の透明性を確保するために、株主・投資家の皆様をはじめ、すべてのステークホルダーに適時・適切かつ公平に情報を開示するよう努めています。

また、さまざまな機会や手段を用意して、株主・投資家の皆様と積極的にコミュニケーションを図っています。

## ディスクロージャー・ポリシー

芙蓉リースでは、ステークホルダーに当社を正しくご理解・ご評価いただくための情報開示に関する基本方針として、「ディスクロージャー・ポリシー」を定め、Webサイトで公表しています。

[ディスクロージャー・ポリシー](#) 

# 株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

## 株主総会

芙蓉リースでは、株主の皆様の利便性に配慮し、株主総会の集中日を避けて早期に株主総会を開催するとともに、招集通知も早期に発送しています。また、株主の皆様の議決権行使の利便性を高めるために、インターネットで議決権を行使していただけるようにしています。

株主総会は株主の皆様とのコミュニケーションの場であるとの考えから、報告内容については映像や図・表を使ってわかりやすく説明するなど、開かれた株主総会を目指しています。

## 株主様向け小冊子「決算のご報告」「中間のご報告」

芙蓉リースでは、業績や事業トピックスなどの企業活動を小冊子「決算のご報告」「中間のご報告」にわかりやすくまとめ、半期ごとに株主の皆様へお送りしています。

## Webサイト「個人投資家の皆様へ」

芙蓉リースでは、Webサイトの「IR情報」ページに「個人投資家の皆様へ」と題したコーナーを開設し、個人の株主・投資家の皆様にわかりやすくIR情報をお伝えしています。

## 決算説明会

芙蓉リースは、機関投資家やアナリストの皆様を対象にした決算説明会を年2回、5月と11月に開催しています。また、アナリストの皆様との個別ミーティングも行っており、2014年度は延べ78社と実施しました。

# 株主還元と株式の状況

## 株主還元に関する基本方針

芙蓉リースグループは、業績および経営目標などを勘案し、経営基盤・財務体質の強化をめざして株主資本の充実に努めるとともに、株主の皆様への長期的・安定的な利益還元を努めることを基本方針としています。

また、株主の皆様からの日頃のご支援にお応えし、当社株式への投資魅力を高め、長期的に当社株式を保有していただける株主の増加を図ることを目的に、株主優待制度を導入しています。

## 株主優待制度と制度に連動した寄付について

芙蓉リースでは、上記の株主優待制度導入の目的を推進するため、優待品を図書カードまたはカタログギフトとの選択制にするとともに、保有継続期間2年未満の株主様には3,000円相当、2年以上の株主様には5,000円相当の優待品を贈呈しています。

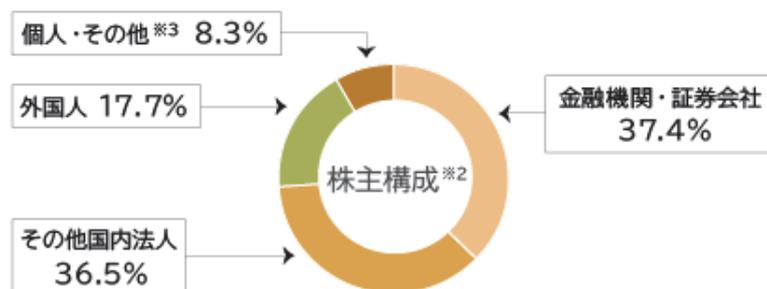
また、「リース事業を通じて企業活動をサポートし、社会の発展に貢献する」という当社の経営理念を株主の皆様とともに推進していくために、株主優待相当額の10%を当社から社会貢献活動に取り組んでいる団体などへ寄付する制度を導入しています。

2014年度は、この制度を活用して2つの団体に計449万9,100円を寄付を実施しました。経済同友会が事務局を運営する「IPPO IPPO NIPPON プロジェクト」へは、前年度に続いて寄付を実施し、224万9,550円を寄付しました。このプロジェクトは、東日本大震災の発生後5年間10期(2016年9月まで)にわたって被災地の人づくりや産業活性化を支援するもので、今回はその第7期活動(2014年9月1日～2015年1月30日)への寄付となります。また、2014年度は新たに日本赤十字社の「2014年西アフリカ エボラ出血熱救援金」に224万9,550円を寄付しました。この救援金は、西アフリカ地域の各国赤十字社と国際赤十字の救援活動に充てられます。寄付先や寄付金額は毎年秋にWebサイトで報告しています。

[株主優待制度](#)

## 株式の状況(2015年3月31日現在)

- 株主数: 13,698名
- 株式数: 30,287千株※1
- 株主構成※2



※1 千株未満は切り捨てて表示しています。

※2 株主構成は株式数ベースです。

※3 個人・その他には、自己名義を含んでいます。

# 社会貢献に対する考え方

## 社会貢献に対する基本的な考え方

芙蓉リースグループは、地域社会との深い関わりを認識し、地域社会の発展に貢献する「良き企業市民」としての役割を果たしていきたいと考えています。

こうした考えのもと、当社グループは、以下のように基本方針を定めて社会貢献活動に取り組んでいます。

### 社会貢献方針(抜粋)

#### ■ 第3条(社会貢献の対象分野)

以下の対象分野について取り組む

- (1) 環境
- (2) 地域社会への貢献
- (3) 学術・研究
- (4) 災害被災地支援

#### ■ 第4条(実施の判断基準)

以下の基準に照らして実施の判断を行う

- (1) 社会からの理解  
公共性が高く、広く社会の理解が得られる取り組み
- (2) 当社の特徴を活用  
当社のノウハウや商品・サービスを活かした取り組み

# 本業を通じた社会貢献活動

## 活動事例

### 地元の生徒・学生とともに、アクアリウムで笑顔と癒しを提供

#### インテリア水槽を使った社会貢献活動「アクアdeスマイル」

芙蓉リースはグループ会社のアクア・アートとともに、自社商品のインテリア水槽「AQUA ART」を用いた社会貢献活動「アクアdeスマイル」に取り組んでいます。

「都会の子供たちに熱帯魚を見せてあげたい」「アクアリウムで、笑顔と癒しを届けたい」という想いを込め、幼稚園や母子生活支援施設に水槽を寄贈(無償レンタル)する活動を継続するとともに、2013年度からは、芙蓉リース本社の近隣に所在する東京都立工芸高等学校と東京デザイナー学院の生徒・学生さんたちに水槽内のデザイン製作を競ってもらい、優秀作品を商業施設などに展示して一般公開する活動を始めました。

2014度は、夏休み期間に千葉県流山市の大型ショッピングセンター「流山おおたかの森 S・C」で、クリスマスシーズンには東京六本木の「東京ミッドタウン」で展示イベントを実施。3年目となる2015年度は、本活動に賛同くださった株式会社東京ドームホテルと共同で、夏休み期間に同ホテルで優秀な6作品を展示しました。どの開催場所でも、楽しく独創的なデザインに飾られた水槽に、子供たちが声を上げて駆け寄る光景が何度も見られました。

#### 水槽の寄贈先の皆さまにもっと喜んでいただくために社員による児童向けの出前授業も実施

「アクアdeスマイル」では、水槽を寄贈している地元の幼稚園や母子生活支援施設の皆様にもっと喜んでいただけるよう、2013年度から、児童向けの「環境教育イベント」として社員による出前授業も実施しています。

日頃から「AQUA ART」に触れている子供たちは熱帯魚が大好きで、その生態についての知識の豊かさには、説明する社員たちが驚かされるほどです。活動を通して、元気な子供たちと触れ合う時間は、社員たちにとっても楽しいひとときになっています。

芙蓉リースは今後とも本活動を通じて、子供たちや地域社会に笑顔と癒しを届けていきたいと考えています。



東京都立工芸高等学校の制作グループの生徒さん：東京ドームホテルのロビーに展示された作品とともに(2015年夏)



試作品のレイアウト作業(2015年夏)



東京ミッドタウン(2014年クリスマス)



社員による児童向けの出前授業

## アクアdeスマイル活動のロゴについて

「アクアdeスマイル」活動のシンボルマークとなるロゴができました。このロゴは、都内の美術大学や東京デザイナー学院の学生さんたちに制作を呼びかけ、ご応募いただいた多くの作品の中から選んだデザインです。ポップでカラフルなこのロゴのように、みんながワクワクする楽しい「アクアdeスマイル」活動を、さらに広げていきたいと考えています。



東京デザイナー学院の在校生がデザインしたシンボル・ロゴ

## 働く意義を伝えるインターンシップを実施し、次代を担う学生に職業体験の機会を提供

芙蓉リースでは、次代を担う大学生や大学院生に働く意義を伝えることを目的に、リースビジネスへの理解を深め、実際の仕事の一部を体感できるインターンシップを開催しています。

開催5回目となる2015年は2月24～27日の4日間に109名の学生が参加しました。リースの基本などを学んだ後、契約書類の作成やリースをテーマとしたグループワークを実施。さらに若手社員を交えた懇談会を開催して働くことや、学生と社会人との違いなどについて意見交換を行いました。参加学生からは、「リース事業への理解に加え、働くとはどのようなことなのかを考えるきっかけとなった」「グループワークでは社員の方から鋭い意見をもらい、社会人の視点を感じることができた」といった感想が寄せられました。2016年も2月に開催を予定しています。



グループワーク



グループによる発表

# その他の社会貢献活動

## 活動事例

### CSR研修の一環として、若手社員に福祉・介護研修を導入

芙蓉リースでは、介護事業最大手の株式会社ニチイ学館のご協力のもと、2013年度から入社2年目の若手社員を対象に「福祉・介護研修」を導入しています。

2014年度の研修では、「高齢化社会と介護保険制度の実情」「求められる介護、要支援者・要介護者への対応」「認知症の理解」などの講義のあと、目・耳・膝などに専用のプロテクターをつけて階段の昇降などを行い、高齢者の運動機能を疑似体験したり、車椅子に乗ったりする体験型学習を実施しました。

本研修をきっかけに、若手社員が高齢化社会を取り巻く状況を理解し、併せて日常の場面、例えば、電車や雑踏で高齢者の方を手助けできるようになることを期待しています。本研修は、今後も継続して実施する予定です。



車椅子で段差を体験する受講者



杖をついて慎重に階段を降りる受講者

### 新宿駅西口での「まち美化」活動

芙蓉リース東京営業第三部(旧称:新宿支店)では、新宿駅西口で地元の方々とともに清掃活動に取り組んでいます。

2015年2月12日には、新宿西口の「ポイ捨て防止・路上喫煙禁止キャンペーン」に社員6名が参加しました。また、毎年、5月の新宿区の「ごみゼロデー」にも社員が参加していますが、2015年は雨天のため中止になりました。



とても寒い日で、たっぷり重ね着して参加しました。

## 「FITチャリティ・ラン2014」への参加

芙蓉リースグループでは、「FITチャリティ・ラン(Financial Industry in Tokyo For Charity Run)」に2009年から毎年参加しています。

「FITチャリティ・ラン」は、東京の金融サービス企業が集まって募金活動を行い、地域に根ざした活動をしている非営利団体を支援することを目的としたチャリティ・イベントです。

10回目の開催となった「FITチャリティ・ラン2014」は、12月7日に聖徳記念絵画館および明治神宮外苑周辺道路において開催され、当社グループからは10kmランに社員21名が参加しました。



スタート30分前の10km競技ランナー

## 地域の皆様を「福岡 ヤフオク!ドーム」にご招待

芙蓉リースでは、「福岡 ヤフオク!ドーム」のメセナシートを購入し、地域の福祉施設の皆様やスポーツ青少年をご招待する活動を、2012年度から実施しています。

購入しているメセナシートは、一塁内野側の年間指定20席(2015年度からは10席)で、福岡ソフトバンクホークスの公式試合を全日程観覧できます。

すでにお越しいただいた方々には、たいへんご好評をいただいております。今後も、地域の皆様といっそうの親交を図るために、この観覧席を役立てていく考えです。



福岡 ヤフオク!ドーム



メセナシート

## 寄付活動

### 寄付金総額とその内訳

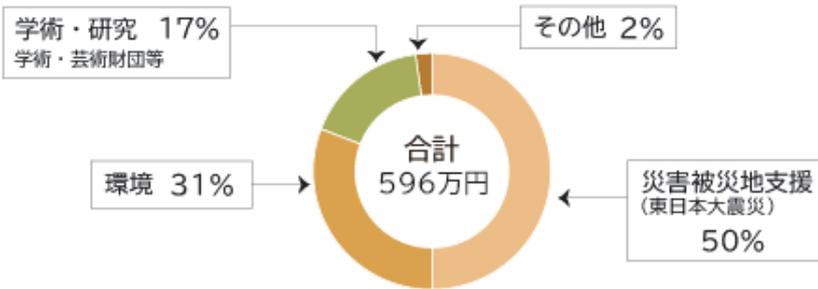
#### ■ 2014年度



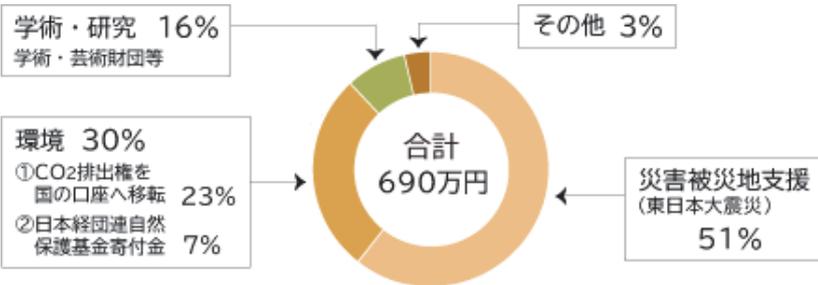
#### ■ 2013年度



#### ■ 2012年度



#### ■ 2011年度



#### ■ 2010年度



## 「芙蓉ハートフルファンド100」の取り組み

芙蓉リースグループでは、社員が寄付を通じて社会に貢献するための基金「芙蓉ハートフルファンド100」を2010年11月に設立しました。ファンドに入会した役員・社員は、給与から毎月100円(役員は300円)を寄付資金として積み立て、積み立てられた寄付資金は、環境保全、地域社会貢献、学術・研究支援、災害被災地支援などの分野で活動を展開している団体などに寄付しています。

2014年度は、このファンドを通じて東日本大震災の被災地支援プロジェクトに15万円、また、国内外の3つの被災地支援・人道支援プロジェクトに各15万円、あわせて60万円を寄付しました。



あなたの応援が、  
復興への一歩になる。

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトに参加  
しました

## 使用済みの切手の寄付

芙蓉リースグループでは、オフィスや社員の家庭で使用済みとなった切手を回収し、海外における保険医療分野の支援協力などを推進している団体へ寄付しています。2014年度は、2,612gを回収し、寄付しました。

### ■ 使用済みの切手・プリペイドカードの寄付実績

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
使用済みの切手	2,618g	2,825g	2,637g	2,041g	2,612g

# 人事制度と能力開発

## 基本的な考え方

芙蓉リースグループでは、差別のない、公平・公正な選考を行うことを、採用の基本方針としています。また、職場で働く社員一人ひとりが互いの人間性を尊重しながら、自律的に成長できる機会の提供に努めています。

芙蓉リースでは、これまで以上に能力・成果・職責を重視した処遇を実現するため、2013年1月に人事制度を改定し、社員一人ひとりが意欲をもって仕事に取り組むことのできる「働き甲斐のある職場づくり」をめざしています。

## 公正かつ公平な評価の実現

芙蓉リースでは、これまで以上に公平かつ公正な評価を実現するため、2013年1月から人事制度の改定に合わせ評価制度も改定しました。

賞与に反映する業績評価については、社員一人ひとりが所属する部門で果たすべき役割と期待される成果を目標管理制度のなかで明確にし、それを評価制度と一体化することで、結果を生み出すためのプロセスにも着眼できる仕組みにしました。

また、昇給・昇格に反映する能力・意欲評価は、社員一人ひとりが担っている役割を果たすために求められる能力などを整理し、評価すべき能力や意欲を明確にしました。

そのうえで、これまで以上に評価者とのコミュニケーションを充実させ、いっそう公平かつ公正な評価の実現をめざしています。

## 教育制度

### リースの基礎・実務知識を学ぶ2年間の入社後研修

リース事業は、法務、税務・会計、金融、商品、業界動向など幅広い知識が求められる仕事です。芙蓉リースでは、入社後2年間で「リースの基礎・実務知識」の習得期間と位置づけ、社内外の講師による各種研修などを実施することで、着実な知識レベルの向上とステップアップを図ります。

また、自己啓発支援として、「通信教育」「資格取得奨励制度」「eラーニング」など多様なメニューを用意し、自学自習の環境を整えています。



熱心に研修課題に取り組む若手社員

### 社員の意欲に応える、「やる気」応援塾

芙蓉リースでは、当社のコーポレートスローガン「前例のない場所へ。」にチャレンジし続ける、やる気と意欲のある社員を全面的に応援していくことをコンセプトに、『FUYO「やる気」応援塾』を、2013年度からスタートさせています。

応援塾Aは、リース業務のさらなるグローバル化を展望し、社員の英語力の向上を図るため、英会話スクールへの通学を支援しています。また、応援塾Bは、営業能力、マネジメント能力、事業戦略・営業戦略を立案・遂行する能力を高め、専門性向上を図るため、ビジネススクールへの通学を支援しています。

今後も、社員の「やる気」に応え、チャレンジ精神豊かなビジネスパーソンとして成長できるように、制度の拡充を図っていきます。



プレゼンテーションを終え「ホット」した表情の西岡なつき社員(ホワイトボード前) ~グローバルビス・マネジメントスクールでの自主勉強会にて

## 社内公募制度

芙蓉リースでは、自発的なキャリア形成を支援する「社内公募制度」を設けています。

海外トレーニー(研修生)のほか、航空機リース、審査、経理などの各部門で公募を実施しています。

海外トレーニーは、米国や香港にある当社のグループ会社や、取引のある金融機関の中国現地法人に1~2年間派遣し、現地で日常業務に携わることで、国際金融取引の基礎知識や語学力の向上をめざしています。2014年度は、3名を派遣しました。



米国(NY)に派遣しているトレーニー



中国に派遣しているトレーニー

## 自己申告制度

芙蓉リースでは、社員の自律的かつ継続的な能力開発の推進を図るため、「自己申告制度」を設けています。社員は、「自己申告書兼キャリア開発表」を通じて、「どのような能力の向上や職務領域の拡大が図れたのか」、自身の成長のために「どのような自己啓発に取り組み、今後どのような分野で経験を積んでいきたいのか」を、年1回、会社に申告します。会社は、この申告内容をもとに、一人ひとりのキャリア形成の考えを把握し、人事施策に反映させています。

また、2014年度には「能力開発計画書」を新たに制定し、これまでに受講した教育諸制度の受講状況を社員一人ひとりに還元し、自己啓発諸制度の自発的な活用を促進しています。

## コース転換制度

芙蓉リースでは、社員の就労や能力開発に関するニーズの多様化に応えるために、一般職から総合職、あるいは総合職から一般職への転換を図る「コース転換制度」を設けています。2011年4月から2015年4月までに4名がこの制度を利用して、新しいフィールドで活躍しています。

## 人権啓発研修

芙蓉リースでは、新入社員研修や新任次課長研修などの階層別研修のなかで継続的に人権啓発研修を実施しています。また毎年、グループの全社員に「人権啓発リーフレット」を配布するなど、人権を尊重することの大切さを啓発しています。

また、パワーハラスメントやセクシュアルハラスメントをはじめとする人権侵害については、社内外に通報窓口を設けています。

# 多様な人材登用

## 基本的な考え方

芙蓉リースでは、コーポレートスローガン「前例のない場所へ。」のもと、お客様の期待を超えるソリューションの提供を実現するため、多様な価値観や発想力を持った人材の育成・登用に努めています。

## 女性社員の活躍推進

### 女性がこれまで以上に持てる能力を発揮し、活躍できる環境づくりに向けて ～「女性の役員・管理職登用にに関する自主行動計画」を策定・推進～

当社では、女性の活躍推進を経営上の重要課題と捉え、女性がこれまで以上に持てる能力を存分に発揮できる環境整備を進めています。

2014年12月には、「女性の役員・管理職登用にに関する自主行動計画」を策定し、「採用」「人材育成」「風土改革」「両立支援」の4つのテーマで、女性のさらなる活躍推進に向けた施策をスタートさせました。

具体的には、個人別キャリアプランの設計による育成方針の明確化や、管理職候補者のキャリア開発支援、働きやすい職場づくりに向けた風土改革、育児休業支援策の拡充などに取り組み、2020年までに女性管理職を現在の1.5倍(40名)にすることをめざしています。

#### ■ 具体的な実施内容

テーマ	目標・内容
(1) 採用	① 総合職採用における女性比率の向上
(2) 人材育成	① 個人別キャリアプランの設計による育成方針の明確化 ② 管理職候補者のキャリア開発支援 ③ ライフイベントなどを見据えたキャリア形成機会の提供
(3) 風土改革	① 意識改革、環境整備 ② 業務スリム化、効率的な時間運営の推進
(4) 育児・介護との両立支援	① 育児休業期間の延長 ② 半日休暇の取得制限緩和 ③ ワーキングマザーなどの外部相談窓口の設置

## 一人ひとりのキャリアプランを支援する3者面談を実施

キャリア開発の支援を目的に、すべての女性総合職を対象に、本人、所属長、総務部の3者間で定期的な面談を実施しています。課題や将来像を踏まえ、個人別のキャリアプランを設計し、一人ひとりの育成を支援しています。



いきいきと働く女性総合職

## 女性社員を対象とした「キャリア講演会」を開催

女性社員がこれからのキャリアを考え、設計する機会として、外部講師による「キャリア講演会」を開催しています。2015年2月から2回開催し、延べ108名の女性社員が参加しました。

### ■ キャリア講演会のテーマと内容

回	テーマ	内容
第1回	「女性が働き続けるということ」 ～これからのキャリアを考える～	女性の働く環境変化、女性が活躍している他社の事例などを聞き、これからのキャリアについて考える
第2回	「気持ちよく働ける職場づくり」	CS・ESの幸せサイクル ～職場のさまざまな人の価値観を受け入れ、気持ちよく生産性の高い仕事をするため、心のマナーやコミュニケーションについて考える～



キャリア講演会(2015年7月)

## より良い職場環境づくりに向け、ワーキンググループを発足

女性社員が、中長期的なキャリアビジョンを描き、いきいきと働き続けられる職場環境の整備を目的に、第1期ワーキンググループを2015年1月に発足しました。

メンバーは、ワーキングマザー、若手女性社員、若手男性社員の7名で構成され、「仕事と育児の両立支援」をテーマに、女性社員の就労支援制度の拡充、男性社員の育休取得推進、男性管理職の意識改革に向けた施策の検討を行いました。



ワーキンググループのメンバー

## 『会社で支える「子育て支援ガイドブック」』を全社員に配布

男女ともに安心して子どもを産み・育てていくには、すべての社員が次世代育成の重要性を理解し、職場全体で子育てを支援する職場づくりが不可欠です。そこで、子育てに関する制度や情報を伝える一つのツールとして「子育て支援ガイドブック」を2015年10月に作成し、芙蓉リース全社員に配布しました。

「女性活躍推進の取り組み」「子育てに関する情報・FAQ」「子育て経験者インタビュー」などを掲載しています。



『会社で支える「子育て支援ガイドブック」』

## 障がい者雇用

芙蓉リースでは、障がい者雇用にも努めています。

従来から実施してきた中途採用に加え、2015年度は新卒採用も開始しました。採用活動においては、障害の内容や職務希望などを考慮し、入社後は配属先や担当業務、勤務時間帯などを決め、能力を発揮しやすい職場環境の整備・配慮に取り組んでいます。

2014年度末時点で、芙蓉リースにおける障がい者雇用率は2.0%と法定雇用率を満たしています。

## 高齢者雇用(定年再雇用)

芙蓉リースでは、2013年4月に施行された改正高年齢者雇用安定法に基づいて、これまでの継続雇用制度を見直し、定年を迎える社員が希望すれば原則として全員満65歳まで働くことができる制度に改正しました。

2014年度末現在、35名の継続雇用者が、債権回収業務や与信判断業務、リース物件のリマーケティング部門など長年培った知識や経験を活かせる分野で活躍しています。

## 正社員チャレンジ制度

芙蓉リースでは、能力や意欲の高い契約社員のさらなる能力開発および職務領域の拡大を図るため、一定の要件を満たす契約社員を、正社員に登用する制度を2014年4月に新たに制定しました。

2015年4月には4名の契約社員が正社員に登用され、管理部門や営業事務の分野で活躍しています。

# 働きやすい職場づくり

## “働き方の変革”～効率的な時間運営の推進～

芙蓉リースは、「働き甲斐のある職場づくり」を実現するため、すべての社員が自律的にワーク・ライフ・バランスを推進し、仕事と生活双方において、健康の維持・増進、知識・見聞の拡大、自己啓発などの質を高めることのできる職場環境の整備に努めています。

その一環として、2014年度から全社の課題として、“働き方の変革”に取り組んでいます。具体的には、原則毎週水曜日に設定している「ノー残業デー」は退社目標を18時に、7月最終週から4週間にわたって設定している「夏季ノー残業期間」は、退社目標を19時にそれぞれ設定し、その時刻までに退社した社員の割合は、いずれも95%以上となっています。また、昨年度よりも30分早く帰ることを目標とする「マイナス30分運動」も同時に展開しています。

さらに、2015年度からは、2011年度に制定した「夏季・冬季の連続休暇取得奨励制度」に加え、「年間10日以上 of 年次有給休暇取得の奨励」を追加し、推進しています。

2014年度の年次有給休暇取得率は58.5%と前年度とほぼ同じ水準でしたが、2015年度は、次世代育成支援対策推進法に基づく「第六期自主行動計画(期間:2015年4月～2017年3月まで)」の目標で掲げている「年次有給休暇取得率60%以上」をめざし、計画的な取得を推進しています。

## 労働安全衛生法への対応

芙蓉リースは、社員が健康で安全にいきいきと働ける職場環境を整えることが、会社を活性化させ、生産性の向上につながるものと考えています。

この考えのもと、労働安全衛生法に基づく「衛生委員会」を毎月1回開催し、職場の安全衛生水準の維持・向上に努めています。

## メンタルヘルスケア

芙蓉リースは、社員のメンタルヘルスの維持・増進のために、「EAP※」を関係会社4社とともに導入しています。社員は、いつでもWeb上でセルフチェックを実施して自らのストレス状況を確認でき、家族を含めて、専門カウンセラーに相談することができます。それらの結果は、会社には開示されず、個人のプライバシー保護には配慮しています。

また、年2回、すべての社員を対象にセルフチェックを実施して職場のストレス状況を診断しています。

なお、2015年12月からは、改正労働安全衛生法の施行に伴い、ストレスチェックが義務化されます。芙蓉リースでは、従来から法改正の趣旨に則った対応を実施してきましたが、改めて「衛生委員会」で審議したうえで、必要な対応を行っていく予定です。

※ EAP(Employee Assistance Program:社員支援プログラム):1960年代に米国で誕生した企業・団体組織の社員・職員を対象とする総合カウンセリングサービス。個人的な不安や悩み、ストレス問題の早期発見と問題解決のプロセスを通じて、職場のメンタルヘルスケアを支援し、企業の事業活性、生産性の維持・向上を図るプログラムです。

# 次世代育成支援

## 自主行動計画

芙蓉リースでは、2005年に次世代育成支援対策推進法が施行されて以来、同法に基づき「一般事業主行動計画」を2年ごとに策定し、次世代育成支援のための労働環境の整備に取り組んできました。

その結果、次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画を達成し、仕事と家庭の両立支援に取り組んでいる企業として、2007年以降継続して、東京労働局から「基準適合一般事業主」の認定を受け、厚生労働省の「次世代認定マーク※」(愛称:くるみんマーク)を取得しています。

なお、これまで延べ約90名が育児休業を取得し、その大半が育児休業から復職しています。

2014年度末現在、育児休業を経て、子育てをしながら活躍しているワーキングマザーは、女性社員の2割を占めています。



くるみんマーク

### 第五期行動計画(2013年4月～2015年3月)に基づく取り組み

- 取得できる育児休業の最長期間を1年6ヶ月から2年間に拡大しました。
- 育児労働者の半日有給休暇の取得制限を「小学校未就学までの年16回」から「小学校6年生以下の年20回」に緩和しました。
- 育児労働者の外部相談窓口を設置しました。
- 2011年度に制度化した連続休暇取得奨励制度を継続して実施し、年次有給休暇の計画的な取得を推進しました。
- 育児休業制度の利用についての数値目標を下記のとおり達成しました。

男性の育児休業取得者:1名(目標:1名以上)  
女性の育児休業取得率:100%(目標:70%以上)

### 第六期行動計画(2015年4月～2017年3月)に基づく取り組み

育児・介護との両立を支援し、性別に関係なく働きやすい労働環境を整備するため、下記のとおり行動計画を策定しました。

#### 内容

- 男性社員の育児休業などの取得推進
- 短時間勤務制度の緩和
- 所定外労働時間の削減
- 年次有給休暇の計画的な取得推進
- 働き方の見直しに資する取り組みの実施

#### 数値目標

- 男性社員の育児休業および関連制度利用者を30%以上にする
- 年次有給休暇取得率を60%以上にする

# 社員関連データ

## 芙蓉リースグループ 連結データ

### 社員数(名)

	2010年度末	2011年度末	2012年度末	2013年度末	2014年度末
社員数	1,403	1,504	1,500	1,521	1,542

## 芙蓉リースグループ 単体データ

### 社員数(名)

#### ■ 2010年度末

	男性	女性	合計
総合職	417	19	436
一般職	1	140	141
嘱託	12	6	18
合計	430	165	595

#### ■ 2011年度末

	男性	女性	合計
総合職	427	20	447
一般職	1	145	146
嘱託	12	6	18
合計	440	171	611

#### ■ 2012年度末

	男性	女性	合計
総合職	455	24	479
一般職	1	152	153
嘱託	19	7	26
合計	475	183	658

#### ■ 2013年度末

	男性	女性	合計
総合職	454	27	481
一般職	2	147	149
嘱託	19	11	30
合計	475	185	660

#### ■ 2014年度末

	男性	女性	合計
総合職	452	30	482
一般職	2	147	149
嘱託	27	11	38
合計	481	188	669

## 新卒採用人数(名)／定着率(%)

入社年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
総合職	12	17	16	12	17
一般職	1	1	0	1	1
合計	13	18	16	13	18
入社3年後の定着率	96.6	92.6	92.8	100	94.4

## 退職者数(名)／退職事由／離職率(%)

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
総合職	11	8	4	6	4
一般職	4	3	6	3	4
合計	15	11	10	9	8
自己都合	8	7	8	7	5
定年	7	4	2	1	0
その他	0	0	0	1	3
離職率	2.3	1.7	1.4	1.3	1.1

※ 離職率＝各年度の退職者数÷期初人数×100

## 平均年齢(歳)／平均勤続年数(年)／平均給与(千円)

	2010年度末	2011年度末	2012年度末	2013年度末	2014年度末
年齢	39.4	40.1	41.0	41.4	41.9
勤続年数	14.5	15.1	15.4	15.9	16.3
年間給与	8,007	8,094	8,167	8,222	8,293
有休取得率(%)	59.0	60.1	60.9	59.1	58.5

## 女性管理職者数(名)

	2010年度末	2011年度末	2012年度末	2013年度末	2014年度末
女性管理職者	18	22	26	25	25

## 海外トレーニー派遣者数(名)

	2010年度末	2011年度末	2012年度末	2013年度末	2014年度末
派遣者数	2	3	2	2	3

## コース転換制度利用者数(名)

	2011/4	2012/4	2013/4	2014/4	2015/4
利用者数	0	2	0	0	2

## 正社員チャレンジ制度利用者数(名)

	2011/4	2012/4	2013/4	2014/4	2015/4
利用者数	—	—	—	0	4

## その他社員関連データ

	2010年度末	2011年度末	2012年度末	2013年度末	2014年度末
育児休業取得者数(名)	9	9	4	4	8
定期健康診断受診率(%)※1	99	99	97	99.7	99.8
障がい者雇用率(%)	1.8	1.9	2.0	2.0	2.0
労働災害発生件数(件)※2	1	1	3	4	2

※1 定期健康診断は、35歳未満までが一般検診、35歳以上40歳未満は成人病検診、40歳以上は人間ドックを実施しています。

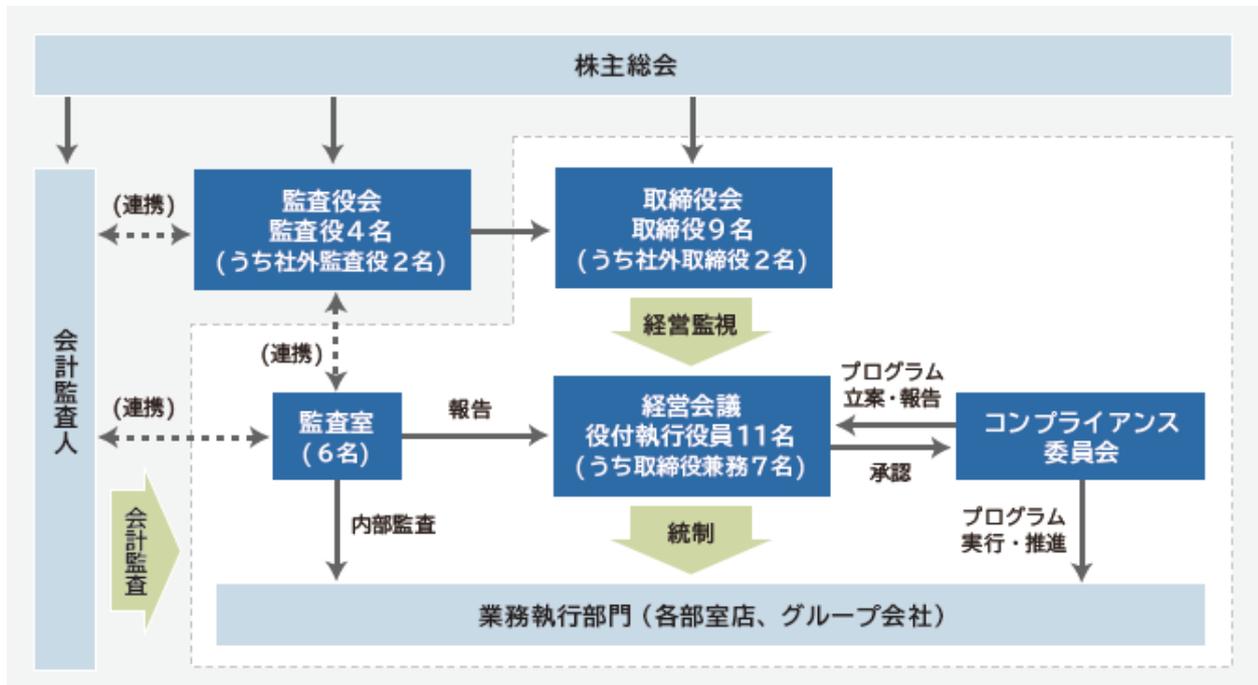
※2 通勤途上の道路での転倒によるケガなどで、全件軽症です。

# コーポレート・ガバナンス

## 基本的な考え方と体制

芙蓉リースグループは、株主の皆様、お客様、社員、地域社会など、さまざまなステークホルダーとの関係を重視し、当社の経営理念のもと、誠実かつ公正な企業活動を遂行することがコーポレート・ガバナンスの基本であり、最も重要な課題であると考えています。

### ■ コーポレート・ガバナンス体制図



詳しくはコーポレート・ガバナンス報告書をご覧ください。

 [コーポレート・ガバナンス報告書](#) (2.75MB)

### ■ コーポレートガバナンス・ガイドライン

当社は、2015年9月開催の取締役会において、「コーポレートガバナンス・ガイドライン」を制定しました。

本ガイドラインは、当社の持続的成長と中長期的な企業価値向上を図るため、東京証券取引所が定める「コーポレートガバナンス・コード」の趣旨・精神を踏まえつつ、当社におけるコーポレートガバナンスの基本的な考え方、枠組み及び運営方針等を定めています。

詳しくはコーポレートガバナンス・ガイドラインをご覧ください。

 [コーポレートガバナンス・ガイドライン](#) (337KB)

# リスク管理／コンプライアンス

## リスク管理体制

芙蓉リースグループは、リスク管理規程を制定し、管理すべきリスクの特性や重要性に応じた管理体制を構築しています。

管理すべきリスクを、信用リスク、市場リスク(金利変動リスクなど)、流動性リスク(資金繰りリスクなど)、事務リスク、システムリスク、法務リスク、レピュテーションリスクおよびその他のリスクに区分し、それぞれリスク所管部を定め、管理にあたっています。

各リスクの特性や重要度に応じて取締役会・経営会議においてリスク管理方針の審議や管理状況の報告を実施しているほか、市場リスク、流動性リスクを適切に管理・統制するためにALM(資産・負債管理)委員会を定期開催するなど、リスク管理体制の高度化に注力しています。

また、大規模災害等が発生した場合には、「緊急時対策規程」に従い、社長を本部長とする緊急時対策本部が安全の確保と業務の継続に必要な措置を講じるなど、緊急事態を想定した体制を整備しています。

## コンプライアンス推進体制

芙蓉リースグループでは、コンプライアンスの徹底を経営の基本原則として位置づけ、あらゆる法令やルールを厳格に順守し、社会的規範にもとることのない、誠実かつ公正な企業活動を遂行するため、コンプライアンス体制の強化・充実に取り組んでいます。

また、コンプライアンス委員会を設置し、毎年、グループ全体のコンプライアンス・プログラムを策定するとともに、全役員・社員によるコンプライアンスの実践、コンプライアンス教育の推進、コンプライアンス体制の整備など、コンプライアンス・プログラムの推進を徹底するための活動を行っています。

## 内部通報・相談窓口(コンプライアンス相談窓口)

芙蓉リースグループは、各社内にコンプライアンス相談窓口を設置しているほか、芙蓉リースの常勤監査役、および提携している弁護士事務所にも相談窓口を設置しています。

違法行為や不正行為を発見した際、すぐに相談・通報できるよう、社内にポスターを掲示するとともに、携帯用カードをグループの全役員・社員に配付しています。

## コンプライアンス研修

芙蓉リースでは、コンプライアンスの徹底を図るために、全社員に対する研修に力を注いでいます。

全社員および関係会社社員を対象にコンプライアンスに関する職場研修やインサイダー取引規制に関するeラーニングを実施しているほか、役員・部室店長・関係会社社長、コンプライアンスオフィサー向けには外部講師を招いて集合研修などを実施しています。

2014年度の職場研修は、独占禁止法上の行為規制をテーマに、各職場で実施しました。

## コンプライアンス研修の実施状況(2014年度)

### ■ 集合研修

対象者	テーマ	実施回数
全社員 (職場ごと)	独占禁止法上の行為規制	1回
新入社員	コンプライアンス入門、インサイダー取引規制についての注意ほか	3回
2年次総合職	個人情報保護法、セクハラ、SNSに関する注意等について	2回
5年次総合職	秘密情報管理、不正防止策について	1回

### ■ eラーニング

対象者	テーマ	実施回数
役員、部室店長など	インサイダー取引規制(東京証券取引所のeラーニング)	2回
全社員	情報管理の徹底(インサイダー取引規制、ソーシャルメディア利用に関する注意)、セクシュアルハラスメント、パワーハラスメントほか	2回

## インサイダー取引の防止

芙蓉リースは、東京証券取引所の要請に基づき、不正取引などの防止および市場の透明性・公正性の維持を目的としたJ-IRISS※に加盟しています。

※ J-IRISS(ジェイ・アイリス:Japan-Insider Registration & Identification Support System): 上場会社が役員情報を登録し、証券会社が自社顧客情報を当該役員情報と定期的に照合することで、不正取引などについて水際で確認し、可能な限り排除することを目的とした日本証券業協会が運営するシステムです。

# 情報セキュリティへの取り組み

芙蓉リースグループは、業務内容に応じた情報管理体制を構築し、お客様の情報を厳格に管理しています。

グループ各社で情報セキュリティマネジメントの推進体制を構築し、以下の各社では情報セキュリティマネジメントシステムに関する世界標準規格であるISO27001 [▼用語解説](#) の認証を取得し、この規格に基づいてシステムを継続的に改善することで、いっそうの信頼性向上に取り組んでいます。

## 芙蓉リース 第三営業部公共法人室

公共法人およびその関連法人向けリース業務を行う芙蓉リース 第三営業部公共法人室は、2010年12月にISO27001の認証を取得しています。

### ISO27001 マネジメントシステム登録証



## 芙蓉リース販売 東京3Rセンター

芙蓉リース100%出資の連結子会社である芙蓉リース販売では、芙蓉リースのリース満了処理業務を中心に、中古物件の買取・販売業務もを行っています。リース満了物件や中古物件の再商品化を行う拠点として2013年3月に開設した「東京3Rセンター」では、中古情報機器のデータ消去と稼働点検を行うISR(情報セキュリティルーム)において、2013年6月にISO27001の認証を取得しています。

### ISO27001 マネジメントシステム登録証



## エフ・ネット

芙蓉リース100%出資の連結子会社で、情報機器の販売、導入・運用支援、データ抹消などを業務とするエフ・ネットは、2010年1月にISO27001の認証を全社を対象に取得しています。

### ISO27001 マネジメントシステム登録証



## 用語解説

### ISO27001

ISO27001とは国際標準化機構が定めた情報セキュリティマネジメントシステムの仕様に関する世界標準の規格です。

# 芙蓉オートリース

## 芙蓉オートリースの概要

### プロフィール

芙蓉オートリースは、お客様の車に関する煩雑な業務を減らし、経営の合理化をトータルにサポートしています。

### 会社概要

設立 1987年1月

資本金 24,000万円

株主 芙蓉総合リース(100%)

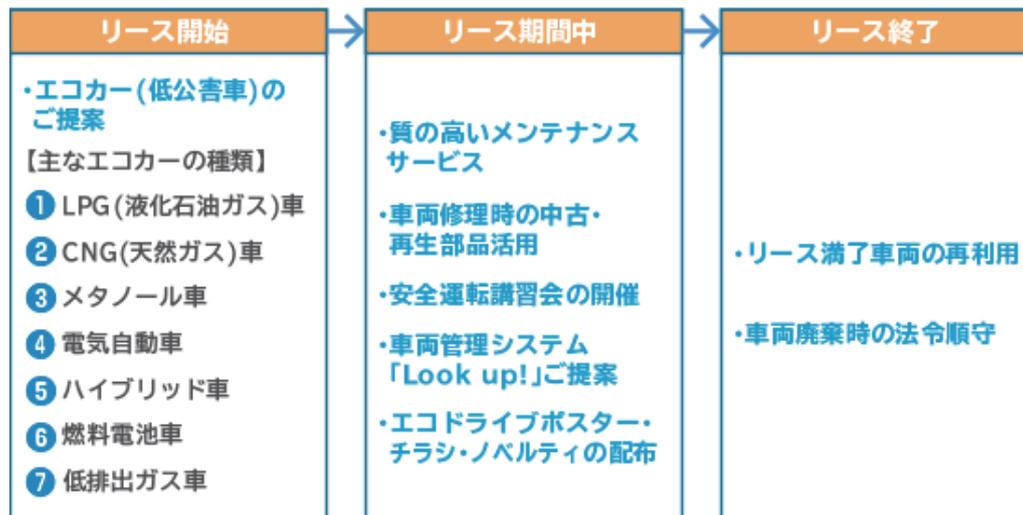
事業内容 自動車のリース・割賦・売買、自動車の整備・修理・保守サービス、自動車給油カード・ETCカードなどの取り扱い

[「芙蓉オートリース」のWebサイト](#)

## 事業活動における環境負荷の低減

芙蓉オートリースは、芙蓉リースグループの環境方針に基づき、全社一丸となって環境負荷の低減に努めています。なかでも、本業であるオートリースにおいては、リース開始、リース期間中、リース終了のすべての段階で環境活動に取り組んでいます。

### ■ オートリース事業における環境活動



### アルコール検知器のご提案によって、お客様の飲酒運転の未然防止を支援

事業用自動車の運転者の飲酒運転を根絶するため、2011年5月1日から、運送事業者が運転者に対して実施することとされている点呼において、運転者の酒気帯びの有無を確認する際にアルコール検知器を使用することなどが義務化されました。

これに伴って、芙蓉オートリースでは、制度のご案内やアルコール検知器の導入支援を行い、多様なお客様のコンプライアンス推進と安全・安心に貢献しています。

### 導入事例

#### お客様導入事例 たましんリース株式会社

たましんリース株式会社は、多摩信用金庫の関連会社として、「多摩への貢献・共に発展」を経営目標に、全社員一丸となり、リース・割賦販売を通じて、お客様の課題解決に取り組んでいるリース会社です。

#### ■ アルコール検知器導入のご提案

社員が飲酒運転で交通事故を起こした場合、運転手に厳しい罰則を科せられるのは当然のこと、「飲酒運転する会社」という大きな社会的信用失墜を招きます。社会的にコンプライアンスの重要性が高まるなか、「安全対策」・「事故防止」策としてアルコール検知器の導入をご提案しました。ご検討の結果、「飲酒運転をさせない」姿勢を明確化させる目的で導入していただくことができました。

#### ■ 飲酒運転による企業損失は大きい

- 「飲酒運転をする会社」という社会的信用失墜
- 被害者への賠償
- 飲酒運転側は保険金支払対象外
- 飲酒運転を起こした社員の処分・業務の遅滞

### お客様の声 たましんリース株式会社

#### 取締役 総務部長 春日 隆志様

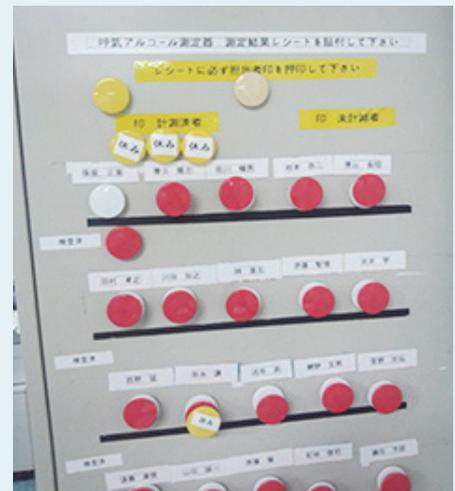
当社では営業活動において営業車を利用しており、社員の日々の体調把握は安全対策の第一歩と考えています。特に「飲酒運転をさせない」という姿勢を明確にするため、前夜のお酒が残っていないかチェックすることで事故防止につながると考え、4年前にアルコール検知器を導入しました。今では営業車を利用する社員全員が朝出社後に検知器によるチェックを行い、安全運転の意識向上にもつながっています。

芙蓉オートリースからは、いつも最新の自動車関連情報などを提供していただいております。今回の検知器の導入もその情報提供がきっかけでした。今後ともよろしく申し上げます。

アルコール検知器の導入にあたっては、以下の工夫をしています。

#### ■ 導入にあたっての工夫

- 該当社員全員を実施対象とする(全員が意識をもつ)
- ボードに掲示することにより実施状況を可視化
- アルコールを検知した際の音による注意喚起
- 検知器データの蓄積・活用



## 社会への貢献

### 交通遺児を支援

芙蓉オートリースは、事業外でも広く社会への貢献をめざしています。

2014年度も、前年度に引き続き、交通遺児支援のための寄付を実施しました。

#### ■ 2012年度～2014年度 支援実績

	活動内容	実績
2012年度	当社社員・会社の寄付金を公益財団法人交通遺児育英会に寄付	72万円
2013年度	当社社員・会社の寄付金を公益財団法人交通遺児育英会に寄付	74万円
2014年度	当社社員・会社の寄付金を公益財団法人交通遺児育英会に寄付	21万円

# エフ・ジー・エル・サービス

## エフ・ジー・エル・サービスの概要

### プロフィール

エフ・ジー・エル・サービスは、芙蓉リースの本社内において、芙蓉リースグループの各種事務代行や損害保険代理店業務を行っています。

### 会社概要

設立	1973年5月
資本金	7,000万円
株主	芙蓉総合リース(100%)
事業内容	事務受託業、損害保険代理店業

## 環境に配慮した書類の受発送業務

芙蓉リースの本社と支店・グループ会社の間では、頻繁に書類のやりとりが行われています。

この受発送業務を代行するエフ・ジー・エル・サービスでは、ISO14001認証を取得した2006年度から梱包用資材の削減に取り組んできました。

専用のナイロン製バッグやジュラルミンケースを活用することで、紙封筒やダンボール箱をほとんど使用することなく、書類を受発送しています。



専用のエコ・バッグ、エコ・ケース

## 動産保険申し込みのペーパーレス化を実現

リース会社では、特別なケースを除き、ほとんどすべてのリース物件に動産総合保険を付保しています。そのため、膨大な枚数の保険申込書が必要で、従来は毎月4,000~5,000ページにもおよぶ帳票を出力していましたが、2012年度から付保申請を電子情報化することでペーパーレスを実現しました。

## 商品を通じた環境貢献使用済み切手の寄付

芙蓉リースグループでは、オフィスや社員の家庭で使用済みとなった切手を集めています。

集まった使用済み切手は、エフ・ジー・エル・サービスが分別・整理して、保健医療分野で支援活動を行っているNGOへ寄付しており、主に海外の保健医療が十分でない地域の支援活動に役立てられています。

2014年度は、約2.6kgの切手が集まり、公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会東京事務局に寄付しました。



寄付するために集まった使用済み切手を丁寧に整理します

# 芙蓉リース販売

## 芙蓉リース販売の概要

### プロフィール

芙蓉リース販売は、芙蓉リースのリース満了案件の事務処理代行、中古物件の販売代行のほか、お客様が所有する物件の買取り・販売なども行っています。

### 会社概要

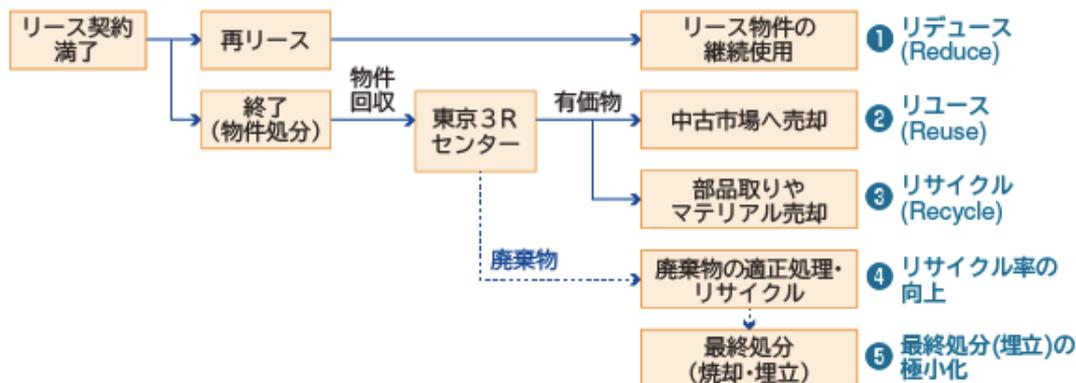
**設立** 1996年4月  
**資本金** 1,000万円  
**株主** 芙蓉総合リース(100%)  
**事業内容** 再リース契約に関する事務処理、リース終了物件の売却・廃棄に関する事務処理、古物売買

[「芙蓉リース販売」のWebサイト](#)

## 3Rの推進による省資源・廃棄物削減

芙蓉リース販売は、リース契約が満了した芙蓉リースのリース物件の処理を担っており、芙蓉リースグループの環境方針のもと3R(リデュース: 廃棄物の発生抑制、リユース: 再利用、リサイクル: 再資源化)に取り組んでいます。

### ■ 芙蓉リース販売の業務と3Rの推進



### 東京3Rセンター

リースが満了したパソコンやプリンターなどの有価物のリユース(再商品化)を行ってきた旧「立川リユースセンター」を、2013年3月に「東京3Rセンター」と名称を改め、東京都八王子市に移転・拡充しました。「東京3Rセンター」では、リース満了物件のみならず、企業などから買い取った中古資産のリユース・リサイクルも推進しています。

センターの安全面については、毎年、中央労働災害防止協会に確認していただいています。

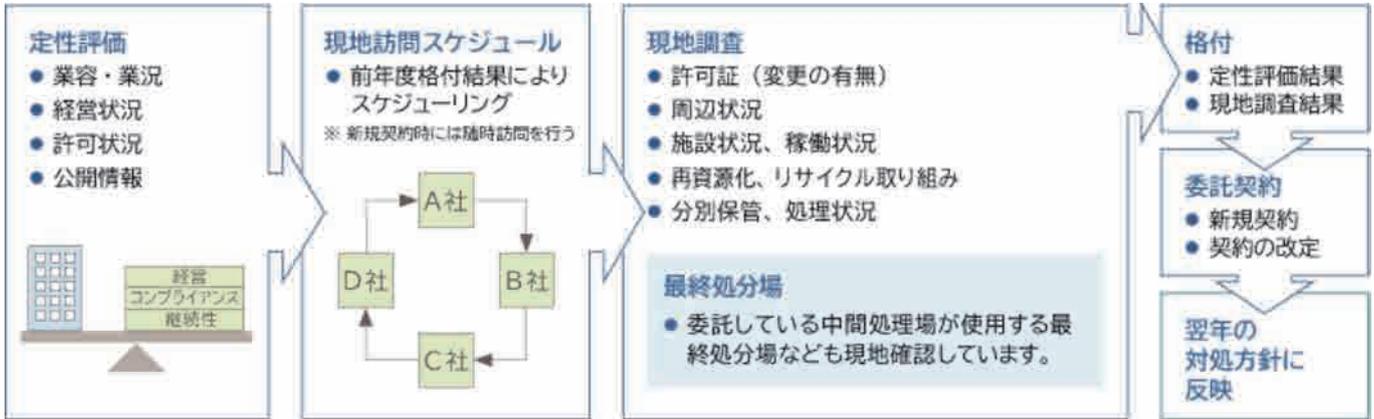
[「東京3Rセンター」のWebサイト](#)

## 廃棄物の適正処理

再利用することができないリース終了物件は廃棄処分しています。廃棄処分に関しては、排出事業者として「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」(廃棄物処理法)などの法令順守は当然として、全数を電子マニフェスト(※)によって厳しく管理しています。処分委託先については、年間を通じたスケジュールにより現地調査を行っています。

※政府は2013年5月に発表した「循環型社会形成推進基本計画」で、電子マニフェストの普及率(2011年度実績:約25%)を、2016年度までに50%とする目標を設定しています。

### ■ 委託先の管理



### ■ 帳票の管理



## 中間処理場の代表例

廃棄物は、中間処理場に運ばれ、破碎等の処理を行うことで減量化・減容化されます。その結果、現在では多くの廃棄物が中間処理場で再資源化されるようになりました。

### 株式会社要興業

株式会社要興業の鹿浜リサイクルセンターは、2000年9月に開設された中間処理工場で、首都圏で発生する混合廃棄物の破碎処理・再資源化を行っています。

2002年にはISO14001:1996の認証を取得し、2010年には東京都の優良産廃処理業者認定制度である「産廃エキスパート」の認定を取得。2011年には「優良産廃処理業者」の認定を取得しました。

同社では、排出事業者向けに廃棄物の情報誌「要環境ニュース」を発刊し、無料出張コンサルや講習会等も行い、廃棄物の適正処理の拡大に努めています。



株式会社要興業 鹿浜リサイクルセンター

### 株式会社リーテム

株式会社リーテムの東京工場は、2005年に竣工、稼働した最新工場で、国の都市再生プロジェクトの一環として東京臨海部に建設された「東京スーパーエコタウン」の一翼を担っています。首都圏で排出される金属系廃棄物を中心にさまざまな廃棄物を100パーセント再資源化しています。

2008年7月には、天皇陛下がご視察されました。



株式会社リーテム 東京工場

## 最終処分場の代表例

廃棄物の最終処分は、埋め立てる最終処分場の不足からリサイクル処理へ移行しています。

### 株式会社エコ計画

株式会社エコ計画の寄居エコスペースと嵐山エコスペースは、環境省から民間企業として唯一「産業廃棄物処理特定施設整備法」の認定を受けた、再資源化・リサイクル率の向上に寄与する総合リサイクル施設です。

20品目以上の廃棄物の受け入れが可能な両施設では、総処理量155.8t/日のサーマルリサイクルを中心に、さまざまなニーズにお応えできるよう、マテリアルリサイクル等の新技術開発にも積極的に取り組んでいます。

芙蓉リースは、定期的に同社の処理施設、処分場を訪問して現地確認や情報交換を行い、相互に環境意識を向上できるような関係を築いています。



株式会社エコ計画 寄居エコスペース

## アクア・アートの概要

### プロフィール

アクア・アートは、1996年7月に芙蓉リースの100%出資子会社として設立され、自然環境を再現した熱帯魚水槽のレンタル事業を行っています。

### 会社概要

設立	1996年7月
資本金	5,000万円
株主	芙蓉総合リース(100%)
事業内容	観賞用水槽の製造・販売・レンタル・メンテナンス

[「アクア・アート」のWebサイト](#)

## インテリア水槽「AQUA ART」

「AQUA ART」は、本物の生物を使い自然界の仕組みをそのまま水槽のなかに再現した商品です。水槽内の食物連鎖は「バランスド・アクアリウム」と呼ばれており、このバランスを維持するためにアクア・アートのスタッフが万全なメンテナンスを行っています。

「AQUA ART」は、オフィスや店舗、病院、学校などで、アクアリウム・インテリアとして、小さいお子様からお年寄りまで幅広い皆様に親しまれています。

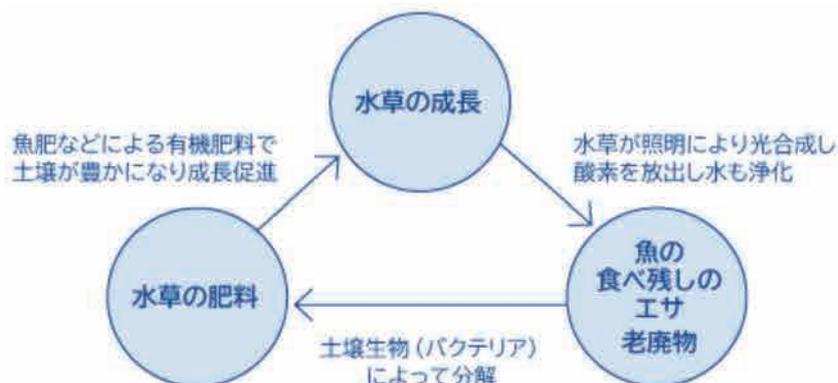
### (1) 人に社会に心安らぐ空間の提供

色鮮やかな魚、安らぎを与えてくれる水草、限りなく澄み切った水、見る人の心を魅了し、自然の素晴らしさと出会える瞬間を「AQUA ART」が心を込めて提供します。

### (2) 自然に関する教育

「AQUA ART」は、本物の生きた魚と水草によって食物連鎖をそのまま水槽のなかに再現した独自のシステムで、お子様が自然界の仕組みを学習するのに最適です。

#### ■ 「AQUA ART」のサイクルシステム



## 商品を通じた環境貢献

アクア・アートでは、2011年6月から、「AQUA ART」水槽の照明を従来の蛍光灯から、省エネ性の高いLEDに順次切り替えています。水槽の照明で使用する電力はごくわずかですが、少しでも省エネに役立つよう、この施策を推進しています。

2013年7月から新規設置水槽にはすべてLED照明を設置し、2015年6月末現在 およそ550台の水槽でLED照明を使用しています。

### 水槽の大きさに合わせて、さまざまなLED照明を準備中



また、水槽のメンテナンス作業で巡回するために使用する車両の一部に電気自動車を導入しているほか、近隣へのメンテナンスには電動アシスト自転車を導入するなど、CO<sub>2</sub>削減への貢献にも努めています。



## 商品を通じた社会貢献

アクア・アートでは、2003年から地元の幼稚園や保育園の環境教育教材として、自社の商品であるインテリア水槽「AQUA ART」を寄贈する取り組みを始めました。

水槽を設置したときに園児たちから湧き上がる歓声と輝いた表情は、アクア・アート社員にとって大きな感慨となっており、地域への貢献だけでなく、社員一人ひとりのモチベーションアップにもつながっています。

2012年以降は、芙蓉リースと協働で、寄贈対象に都内・近県の母子生活支援施設や障害のある方の就労支援施設などを加え、寄贈台数は2015年3月末までに計51台となりました。

今後も、施設の皆様の「心の癒し」に少しでも役立つように努めていきます。

### 地元の幼稚園や母子生活支援施設に寄贈した「AQUA ART」水槽



## エフ・ネットの概要

### プロフィール

エフ・ネットは、ICT機器・ソフトウェアの販売、キッティング・各種設定・構築やデータ消去などの技術サービス、中古PCの再販などを、全社ISO27001認証のセキュリティ基準に基づいて行っています。

### 会社概要

設立	1995年4月
資本金	4,000万円
株主	芙蓉総合リース(100%)
事業内容	サーバー・PC及び周辺機器の販売、キッティング・インストールサービス、中古PCの販売、ネットワークシステム構築

## 中古PCのリユースを推進

エフ・ネットの深川テクニカルセンターは、中古パソコンを使いたい方の手にお渡しする再商品化(リユース)を行っています。

受け入れている中古パソコンは毎月約5,000台(年間約6万台)に上り、データ消去や動作チェックといった適切な処置はもちろんのこと、セカンドユーザーが使いやすいように、リース・レンタルの開始時にあらかじめお預かりしていた取扱説明書などの付属品も併せてお渡ししています。深川テクニカルセンターは、これら一連の作業体制を整え、芙蓉リースが提供する「PC Eco & Valueリース」「PCLレンタル」で契約期間満了を迎えた中古パソコンの再商品化を支えています。



深川テクニカルセンター

# シャープファイナンス

## シャープファイナンスの概要

### プロフィール

シャープファイナンスは販売会社と連携したベンダーリースを中小企業向けに展開するなど、リテールマーケットにおける小口リースに強みをもつリース会社です。

### 会社概要

設立	1982年5月
資本金	30億円
株主	芙蓉総合リース 65% シャープ株式会社 35%
事業内容	各種リース事業、信用販売事業、不動産賃貸業および保険代理業

[「シャープファイナンス」のWebサイト](#)

## シャープファイナンスのCSR活動

芙蓉リースは、シャープ株式会社から同社の100%出資子会社であったシャープファイナンスの発行済株式の65%を2008年4月1日に譲渡を受け、連結子会社化しました。以降、芙蓉リースとシャープファイナンスは相互のノウハウを融合し、多様化・高度化するお客様ニーズに対応しています。

## 蓄電池を通じた環境への貢献

### セールス担当者より

私は現在、大阪支店に勤務し、ソーラーシステムや蓄電池等を取り扱われている販売店様に対し、ローン契約を利用させていただくことで販売拡大、ひいては地球環境への負荷削減につなげられるよう、日々提案活動を行っています。

ソーラーシステムが普及し始めてから約15年、近年、周辺機器を含め技術・商品は大きく進歩し、従来以上に機能的・効率的なエネルギー利用が可能となっています。クラウド型の蓄電池や、エネルギー管理システム(HEMS)等の周辺機器がその例ですが、とりわけ蓄電池は、電気を蓄えることで電力使用を最小限に抑えることができ、光熱費の削減と環境負荷の低減を同時に図れる画期的な商品です。

先日も、すでにソーラーシステムを設置されているお客様が追加で蓄電池を導入された際に、「発電と蓄電が一体で稼働し、経済的であるだけでなく、地球環境に負担をかけていないことが確認できて非常にうれしい」という声をいただき、当社の事業が商品を通して、お客様の価値実現に貢献していると強く感じることができました。

今後も、ローン商品の説明だけに終わることなく、お客様に最適な提案ができるよう、ソーラーシステムや蓄電池はもちろん、新たな周辺機器との連携についても知識を深め、「地球環境に貢献していく」という強い信念を持って、お客様と販売店様の橋渡しをしていきたいと思っています。



## 大阪府流入車規制

大阪府は、「大阪府生活環境の保全等に関する条例」を改正し、トラック・バス等の規制対象自動車について、自動車NOx・PM法の排ガス基準を満たさない規制対象自動車の対策地域への流入を規制しています(2009年1月施行)。

当該規制により、対策地域を発着地とする規制対象自動車の運行を行う場合には、適合車を使用するとともに、大阪府が交付する適合車標章(ステッカー)を規制対象自動車に表示することを義務づけられています。

つきましては、当社グループとの取引に関しまして、対策地域を発着地として規制対象自動車を運行する場合には、適合車の使用義務および適合車標章の表示義務を遵守していただきますようお願いいたします。

当該規制の詳細については[大阪府のホームページ](#)  をご覧ください。

## CSR(企業の社会的責任)について

CSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)とは、企業が、経済・環境・社会などの幅広い分野における責任を果たすことによって、企業自身の持続的な発展をめざす取り組みです。

リース会社である芙蓉リースは、環境や社会問題を解決する商品を自ら生産したり、技術開発をしたりするわけではありません。しかし、環境や社会問題を解決する商品や技術を生産・開発する企業活動を、リース事業を通じてサポートすることが、当社グループの果たすべきCSRだと考えています。

リース事業は、多種多様な設備・機器・製品のリースのみならず、割賦やファイナンスといった各種金融機能を駆使して企業活動を支え、社会に貢献しています。そうしたリース会社ならではの機能を発揮し、今後もステークホルダーの皆様との対話を進めながら、継続的にCSR活動を展開していきます。

## 本Webサイトについて

本Webサイトでは、芙蓉リースグループのCSR(企業の社会的責任)に対する取り組み姿勢と、2014年度に実施した主な活動をできる限り詳細に報告しています。グループ各社の取り組み事例についても報告していますので、ぜひご覧ください。

また、本Webサイト掲載記事のなかから、特に進捗のあった取り組みや注力している取り組みを中心にまとめた冊子「CSR報告書2015ハイライト版」も発行しています。

当社グループでは、ステークホルダーの皆様から幅広くご意見・ご感想を伺い、今後のCSR活動や報告書作成の参考にさせていただきたいと考えています。是非、ご質問・ご意見・ご感想などを、お寄せください。

[こちら](#) 

<b>報告対象組織</b>	芙蓉総合リース株式会社および連結子会社40社および関連会社4社
<b>報告対象期間</b>	2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日) ※ 一部、対象期間外の報告を含んでいます。
<b>発行時期</b>	2015年10月(前回発行2014年10月)
<b>参考にしたガイドライン</b>	本報告の作成にあたっては、環境省「環境報告ガイドライン2012」を参考にしています。

## トップページの画像について

### 社会貢献活動「アクアdeスマイル」

インテリア水槽「AQUA ART」を使った当社グループのこの社会貢献活動は、オフィスや街中、そして都会の子供たちに「自然に触れる機会」と「笑顔」を届けることをめざしています。

本報告のトップページでは、夢中になって「AQUA ART」をのぞいてくれる子供たちと、「アクアdeスマイル」活動を支えてくれる小さなお魚たちに登場してもらいました。



### CSR(企業の社会的責任)についてのお問い合わせ先

芙蓉総合リース株式会社

コーポレートコミュニケーション室

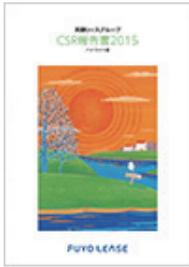
TEL: 03(5275)8891 FAX: 03(5275)8950

ご質問・ご意見・ご感想などを、お寄せください。

[こちら](#) 

# 「CSR 報告書」PDFダウンロード

## CSR報告書2015



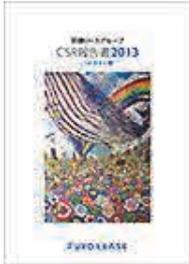
- [CSR報告書2015 フルレポート版](#) (5.38MB)
- [CSR報告書2015 ハイライト版](#) (12.19MB)

## CSR報告書2014



- [CSR報告書2014 フルレポート版](#) (2.73MB)
- [CSR報告書2014 ハイライト版](#) (7.94MB)

## CSR報告書2013



- [CSR報告書2013 フルレポート版](#) (2.54MB)
- [CSR報告書2013 ハイライト版](#) (4.19MB)

## CSR報告書2012



- [CSR報告書2012 フルレポート版](#) (3.50MB)
- [CSR報告書2012 ハイライト版](#) (4.37MB)
- [CSR報告書アンケート](#) (104KB)  
CSR報告書をお読み頂いたご感想をお寄せください。

## CSR報告書2011



- [CSR報告書2011](#) (4.44MB)
- [CSR報告書アンケート](#) (153KB)  
CSR報告書をお読み頂いたご感想をお寄せください。

## CSR報告書2010



- [CSR報告書2010](#) (8.12MB)
- [CSR報告書2010](#)  
電子書籍の形式でご覧いただけます。
- [CSR報告書アンケート](#) (410KB)  
CSR報告書をお読み頂いたご感想をお寄せください。

## CSR報告書2009



- [CSR報告書2009](#) (5.56MB)
- [CSR報告書2009](#)  
電子書籍の形式でご覧いただけます。

## CSR報告書2008



- [CSR報告書2008](#) (2.53MB)
- [CSR報告書2008](#)  
電子書籍の形式でご覧いただけます。
- [CSR報告書2008 ダイジェスト版](#) (0.98MB)

## CSR報告書2007



- [CSR報告書2007](#) (2.32MB)

## CSR報告書2006



- [CSR報告書2006](#) (1.19MB)